

名護市農林水産振興計画策定業務
農林水産業従事者等意向調査報告書

令和5年3月

目 次

1. 名護市の農業に関するアンケート調査結果.....	1
(1) アンケート調査概要	1
(2) アンケート調査結果	2
2. 関連団体等意向調査の概要.....	31
(1) 農業	31
(2) 林業	38
(3) 漁業	38
3. 名護市農林水産物等の利用に関するアンケート調査結果.....	42
(1) アンケート調査概要	42
(2) アンケート調査結果	43

1. 名護市の農業に関するアンケート調査結果

「名護市農林水産振興計画」の策定に向け、名護市の農業について、農家の皆様から意見を伺うために、「名護市の農業に関するアンケート調査」を実施した。

(1) アンケート調査概要

- 1) 調査の実施方法：郵送による配布・回収
- 2) 調査対象：農業従事者（経営農地面積が 10a 以上、農業従事日数が 60 日以上）
調査実施期間：令和 4 年 9 月 12 日～令和 4 年 10 月 13 日
配布数：1,250 件 有効回答数：334 件（無効 34 件）、有効回答率：26.7%

3) アンケートの構成

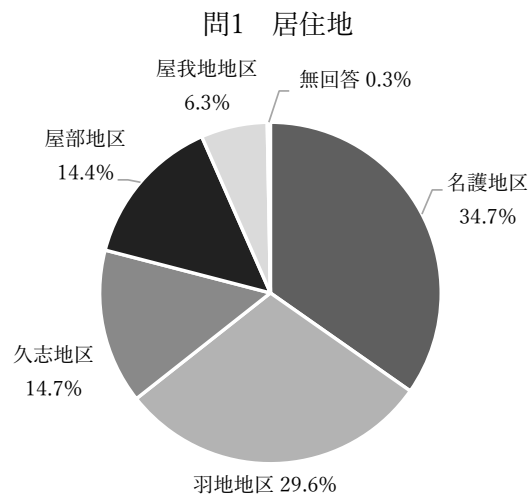
アンケート項目	
基礎情報	問 1 居住地
	問 2 性別
	問 3 年代
	問 4 主力作物の作付地区
	問 5 名護市内で耕作している農地面積（借地含む）
	問 6 営農形態
	問 7 家計の構成
	問 8 年間農業所得
	問 9 農家になったきっかけ
農業経営について	問 10 農作物の主な販売先
	問 11 新型コロナウイルスの影響（販売額の増減）
労働力について	問 12 労働力の確保状況
	問 13 労働力の充足状況
	問 14 外国人技能実習生、農福連携の現状と今後の希望
今後の営農について	問 15 新たに導入したい品目
	問 16 今後の農業経営について
	問 17 今後の農業経営についての取り組みたいこと
	問 18 今後の耕作面積
	問 19 遊休農地の活用について
担い手の確保・育成について	問 20 後継者の状況
	問 21 新規就農者が必要とする取り組み
その他農業に関する事	問 22 市内飲食店等と取り組むうえでの課題
	問 23 鳥獣被害の状況
	問 24 名護市堆肥センターの利用状況
	問 25 農業基盤で改善が必要なこと
農業施策について	問 26 名護市で今後力を入れるべき農業施策

(2) アンケート調査結果

1) 基礎情報

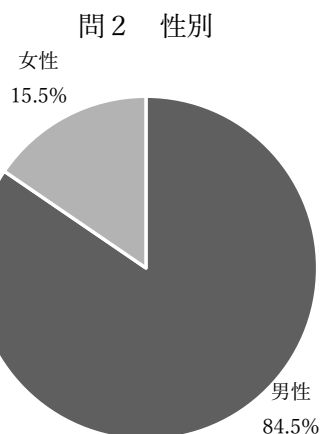
問1 居住地 (○は1つ)

居住地は『名護地区』が3割強(34.7%)と高く、以下『羽地地区(29.6%)』、『久志地区(14.7%)』、『屋部地区(14.4%)』、『屋我地地区(6.3%)』と続いている。



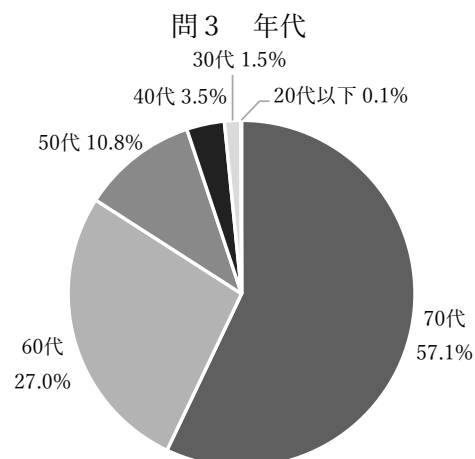
問2 性別 (○は1つ)

『男性』の割合が84.5%と圧倒的に高く、『女性』の回答は15.5%に留まっている。



問3 年代 (○は1つ)

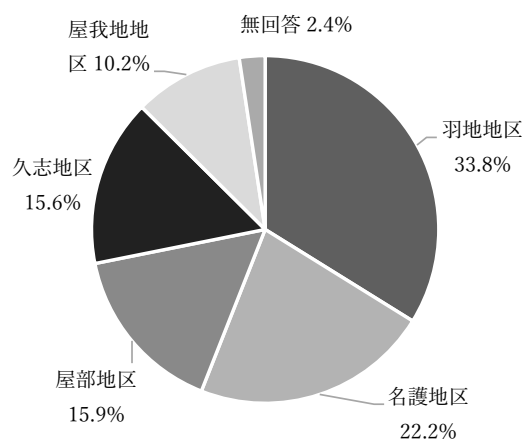
年代は『70代』が57.1%と最も高く、以下『60代(27.0%)』、『50代(10.8%)』、『40代(3.5%)』、『30代(1.5%)』、『20代以下(0.1%)』と続いている。



問4 主力作物の作付地区（○は1つ）

主力作物の作付地区は、『羽地地区』が33.8%と最も高く、以下『名護地区（22.2%）』、『屋部地区（15.9%）』、『久志地区（15.6%）』、『屋我地地区（10.2%）』と続いている。

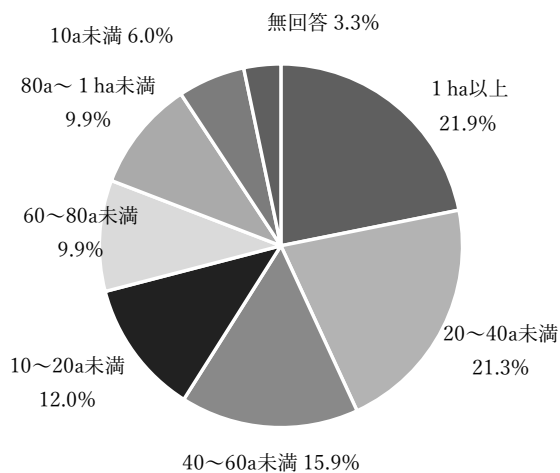
問4 主力作物の作付面積



問5 名護市内で耕作している農地面積（借地含む）をお答え下さい（○は1つ）

『1 ha 以上（21.9%）』及び『20～40a 未満（21.3%）』がそれぞれ2割程度と高く、以下『40～60a 未満（15.9%）』、『10～20a 未満（12.0%）』と続いている。

問5 名護市内の農地面積

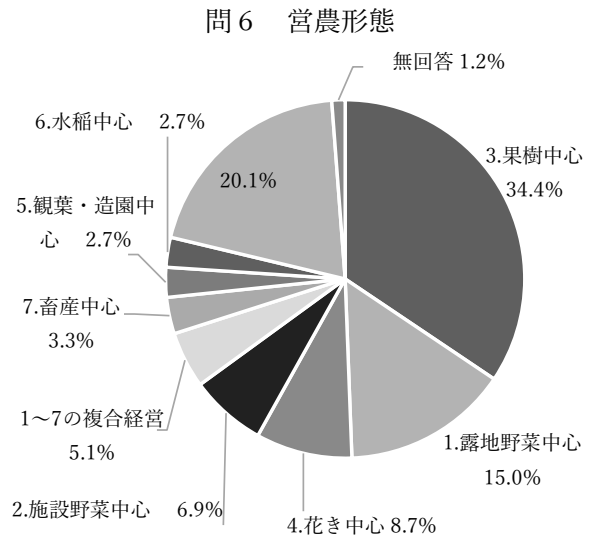


10a (300 坪)
10～20a (300～600 坪)
20～40a (600～1,200 坪)
40～60a (1,200～1,800 坪)
60～80a (1,800～2,400 坪)
80～1 ha (2,400～3,000 坪)
1 ha (3,000 坪)

問6 あなたの営農形態で最も近いものは何ですか (○は1つ)

『果樹中心』が34.4%と最も高く、以下、『露地野菜中心 (15.0%)』、『花き中心 (8.7%)』、『施設野菜中心 (6.9%)』と続いている。

また、様々な農作物を組み合わせた複合経営 (1~7の複合経営) も5.1%みられる。

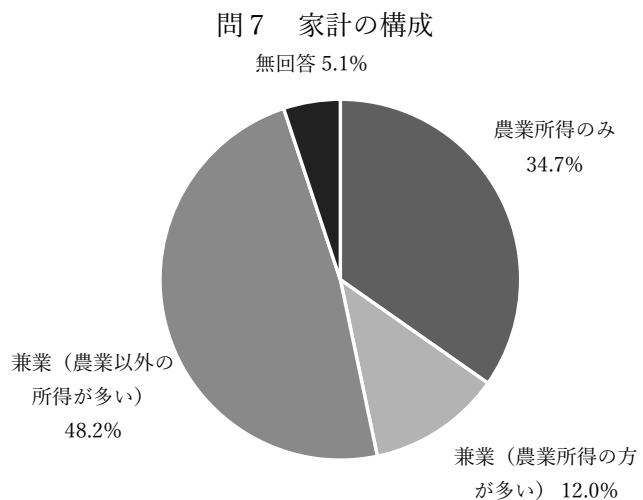


<その他>

さとうきび (44件) / 野菜 (4件) / ウコン・うっちん (7件) / 茶 (4件) / パイン (2件) / アロエ (1件) / らっきょう (1件)

問7 家計の構成 (○は1つ)

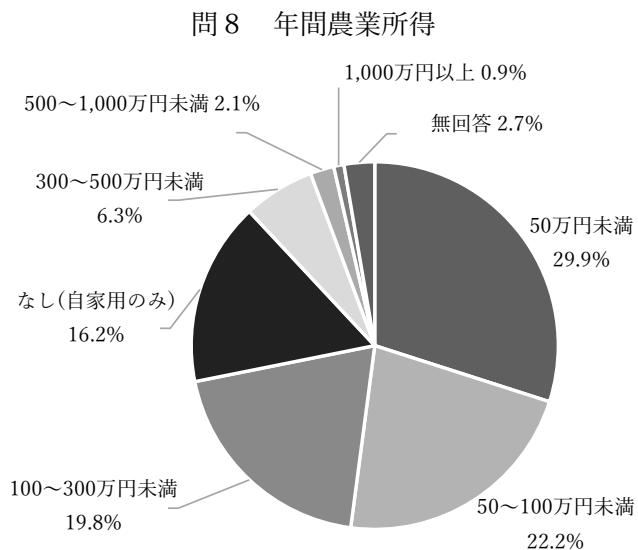
家計の構成としては、6割弱 (60.2%) が「兼業」(『兼業 (農業所得の方が多い) (12.0%)』+『兼業 (農業以外の所得が多い) (48.2%)』) となっており、『農業所得のみ』は4割弱 (34.7%) となっている。



問8 年間農業所得（農業だけの所得）（○は1つ）

年間農業所得は『50万円未満』が約3割（29.9%）と高く、以下、『50～100万円未満（22.2%）』、『100～300万円未満（19.8%）』がそれぞれ2割程度となっている。

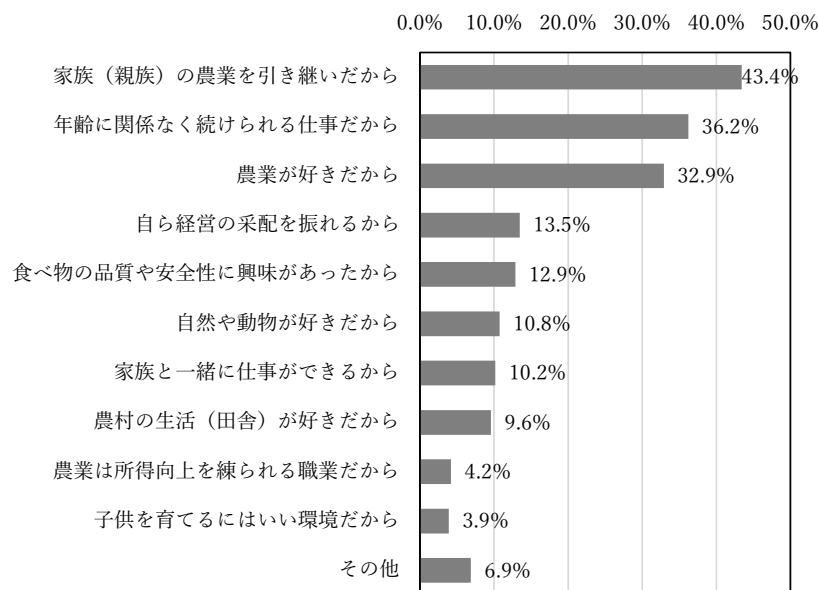
『なし（自家用のみ）（16.2%）』も含めた年間農業所得「100万円未満（『50万円未満』+『50～100万円未満』）」の占める割合が7割近く（68.3%）ある一方、『1,000万円以上』の所得者が0.9%みられる。



問9 あなたが農家になった理由は何ですか。該当する番号すべてに○をつけて下さい

農家になった理由としては、『家族（親族）の農業を引き継いだから』が43.4%と高く、以下『年齢に関係なく続けられる仕事だから』が36.2%、『農業が好きだから』が32.9%と続いている。

問9 農家になった理由



<その他>

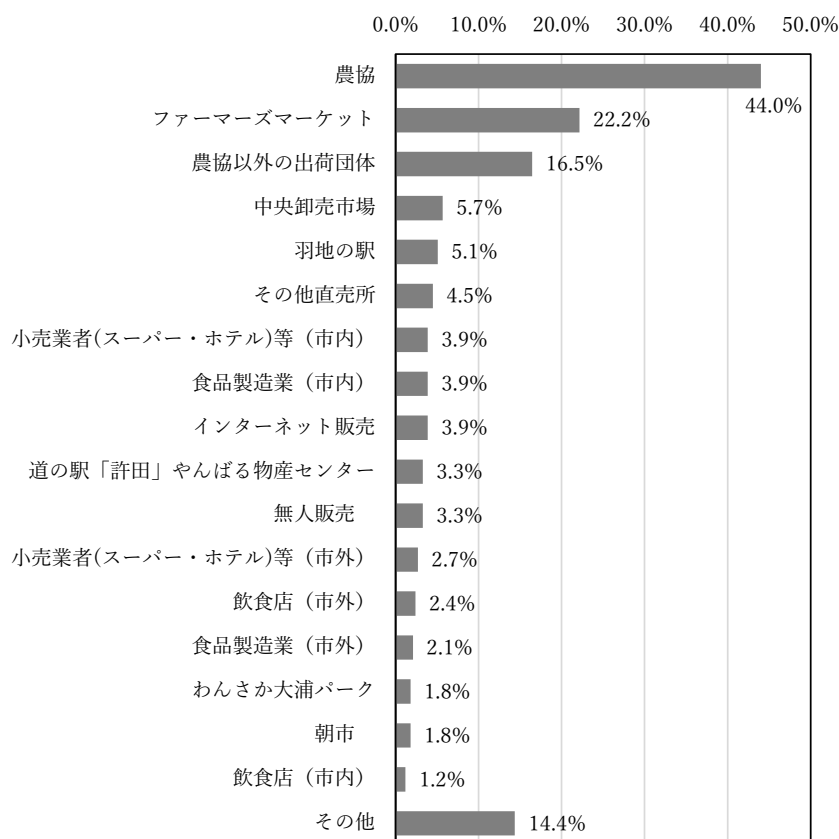
生活の事業でやむを得ず／親から引き継いで兄弟誰もやらないので／しかたなく、
なんとなく／定年後仕事(やる事)がなかったから／仕事をリタイヤしてからやった
が、若いころにもしたことがある／定年後第二の人生／サラリーマンを退職後でき
る仕事が農業だった／会社員退職後の自分の健康づくりかね？／定年退職後／年金
だけでは生活がやっていけないから／年金生活だから／六次化への展開も可能だか
ら／食料自給率が気になったから／共同農園にして農業やりたい方々への農場提供
／頑張ったら頑張った分自分に返ってくるから／農林高校、試験場講習所、派米農
業研修と農業一筋に学び必然的にこの道を歩んできた／夫の死後、荒地にならない
ために利用できる農地は他者が利用／義父が施設入所中にて、90代、以前から農業
ができない／なっていない

2) 農業経営について

問 10 あなたが生産している農作物の主な販売先をお答え下さい。(販売額が多い
順に3つまで数字を記入)

主な販売先の1位～3位の合計をみると、『農協』が44.0%と最も高く、以下『フ
ァーマーズマーケット (22.2%)』、『農協以外の出荷団体 (16.5%)』と続いており、
この3か所が主な出荷先となっている様子がうかがえる。

問10 主な出荷先 (1～3位の合計)



<その他直売所の内容>

エナジック／北部製糖／ゆがふ製糖／個人へ提供／ハッピーモア／JA 直売所／宜野座道の駅／スーパー／うるマルシェ

<その他販売先の内容>

個人販売（8件）／ゆがふ製糖・キビ工場・球陽製糖・製糖工場（7件）／自家用（3件）／勝山シークワサー（2件）／友人・知人（2件）／(株)仲善／沖縄還元フーズ／国／お客さん／せり／直売／ミカン狩り／センバツ物産／卸売業者／ウッチン工場を持つ会社／エナジック／農作物の仲買人／国内店舗／ふるさと納税の返礼品／なし（4件）

問10（複数回答 n=334）	1位		2位		3位		合計	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
農協	132	39.5%	11	3.3%	4	1.2%	147	44.0%
ファーマーズマーケット	31	9.3%	34	10.2%	9	2.7%	74	22.2%
農協以外の出荷団体	43	12.9%	11	3.3%	1	0.3%	55	16.5%
中央卸売市場	4	1.2%	10	3.0%	5	1.5%	19	5.7%
羽地の駅	6	1.8%	9	2.7%	2	0.6%	17	5.1%
その他直売所	4	1.2%	7	2.1%	4	1.2%	15	4.5%
小売業者（スーパー・ホテル）等（市内）	2	0.6%	9	2.7%	2	0.6%	13	3.9%
食品製造業（市内）	8	2.4%	4	1.2%	1	0.3%	13	3.9%
インターネット販売	2	0.6%	9	2.7%	2	0.6%	13	3.9%
道の駅「許田」やんばる物産センター	2	0.6%	6	1.8%	3	0.9%	11	3.3%
無人販売	2	0.6%	5	1.5%	4	1.2%	11	3.3%
小売業者（スーパー・ホテル）等（市外）	2	0.6%	3	0.9%	4	1.2%	9	2.7%
飲食店（市外）	1	0.3%	3	0.9%	4	1.2%	8	2.4%
食品製造業（市外）	4	1.2%	1	0.3%	2	0.6%	7	2.1%
わんさか大浦パーク	2	0.6%	1	0.3%	3	0.9%	6	1.8%
朝市	2	0.6%	1	0.3%	3	0.9%	6	1.8%
飲食店（市内）	0	0.0%	1	0.3%	3	0.9%	4	1.2%
その他	29	8.7%	10	3.0%	9	2.7%	48	14.4%
無回答	58	17.4%	199	59.6%	269	80.5%		

問 11 あなたの販売先の中で、新型コロナウイルスの影響で販売額に増減があった販売先はどこですか。（問 10 の選択肢から選び番号を書いて下さい）

新型コロナウイルスの影響による販売額の増減をみると、販売額が増加したところ
は『農協（13件）』や『農協以外の出荷団体（10件）』、『ファーマーズマーケット（9
件）』の順で多くなっている。

一方、減少した販売先をみると『農協（33件）』や『ファーマーズマーケット（17
件）』、『農協以外の出荷団体（13件）』と続いている。減少した販売先としては『道の
駅「許田」やんばる物産センター（7件）』もあがっており、新型コロナウイルスによる
観光客減少の影響が垣間見える状況となっている。

問11.販売額が『増加』した販売先 (n=334)	1位		2位		3位		合計	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
農協	10	3.0%	2	0.6%	1	0.3%	13	3.9%
農協以外の出荷団体	6	1.8%	4	1.2%	0	0.0%	10	3.0%
ファーマーズマーケット	8	2.4%	0	0.0%	1	0.3%	9	2.7%
中央卸売市場	1	0.3%	1	0.3%	0	0.0%	2	0.6%
その他直売所	2	0.6%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.6%
無人販売	1	0.3%	1	0.3%	0	0.0%	2	0.6%
インターネット販売	2	0.6%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.6%
羽地の駅	1	0.3%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.3%
わんさか大浦パーク	0	0.0%	1	0.3%	0	0.0%	1	0.3%
小売業者(スーパー・ホテル)等(市内)	1	0.3%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.3%
小売業者(スーパー・ホテル)等(市外)	0	0.0%	0	0.0%	1	0.3%	1	0.3%
食品製造業(市内)	1	0.3%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.3%
食品製造業(市外)	1	0.3%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.3%
朝市	1	0.3%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.3%
道の駅「許田」やんばる物産センター	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
飲食店(市内)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
飲食店(市外)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他	10	3.0%	0	0.0%	1	0.3%	11	3.3%

<その他直売所の内容>

直売所／スーパー

<その他の内容>

ふるさと納税の返礼品／変化なし／わからない／なし(7件)

問11.販売額が『減少』した販売先 (n=334)	1位		2位		3位		合計	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
農協	26	7.8%	5	1.5%	2	0.6%	33	9.9%
ファーマーズマーケット	9	2.7%	7	2.1%	1	0.3%	17	5.1%
農協以外の出荷団体	12	3.6%	1	0.3%	0	0.0%	13	3.9%
中央卸売市場	3	0.9%	3	0.9%	1	0.3%	7	2.1%
道の駅「許田」やんばる物産センター	4	1.2%	2	0.6%	1	0.3%	7	2.1%
小売業者(スーパー・ホテル)等(市内)	4	1.2%	2	0.6%	0	0.0%	6	1.8%
小売業者(スーパー・ホテル)等(市外)	2	0.6%	1	0.3%	1	0.3%	4	1.2%
わんさか大浦パーク	1	0.3%	2	0.6%	0	0.0%	3	0.9%
飲食店(市外)	2	0.6%	1	0.3%	0	0.0%	3	0.9%
飲食店(市内)	1	0.3%	0	0.0%	2	0.6%	3	0.9%
朝市	2	0.6%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.6%
羽地の駅	0	0.0%	0	0.0%	1	0.3%	1	0.3%
その他直売所	0	0.0%	1	0.3%	0	0.0%	1	0.3%
食品製造業(市内)	1	0.3%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.3%
インターネット販売	0	0.0%	0	0.0%	1	0.3%	1	0.3%
食品製造業(市外)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無人販売	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他	14	4.2%	0	0.0%	2	0.6%	16	4.8%

<その他直売所の内容>

未記入

<その他の内容>

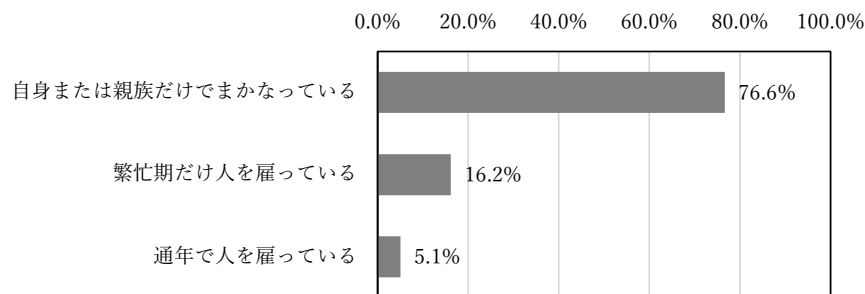
勝山シークワサー／県内の道の駅／キビ生産組合／キビ製糖工場／仲卸業者／お客さん／今帰仁セリ／該当なし／変化なし／わからない／なし(4件)

3) 労働力について

問 12 労働力確保の状況を教えてください。あてはまる番号に○をし、具体的な人数をご記入下さい

労働力の確保については、『自身または親族だけでまかなっている』が76.6%と大半を占めており、以下『繁忙期だけ人を雇っている』が16.2%、『通年で人を雇っている』が5.1%となっている。

問12 労働力確保の状況



働いている方の人数をみると、『自身または親族だけでまかなっている』では、「1人（43.4%）」、「2人（35.5%）」の順で高い一方、5名を超える人数で対応している農家も3件（『5人（2件）』+『6人（1件）』）みられる。

『繁忙期だけ人を雇っている』では、「1人」及び「2人」がそれぞれ18件、「3人（10件）」の順で多く小人数が多い。一方で10人を超える人数の雇用状況も3件（『10人（2件）』+『20人（1件）』）みられる。

『通年で人を雇っている』では、「1人」で9件、「2人」で6件、「3人」、「4人」でそれぞれ1件の雇用となっている。

①自身または親族だけでまかなっている (n=256)

人数	件数	割合
1人	111	43.4%
2人	91	35.5%
3人	28	10.9%
4人	12	4.7%
5人	2	0.8%
6人	1	0.4%
無回答	11	4.3%
総計	256	100.0%

②繁忙期だけ人を雇っている (n=54)

人数	件数	割合
1人	18	33.3%
2人	18	33.3%
3人	10	18.5%
5人	1	1.9%
6人	1	1.9%
7人	1	1.9%
10人	2	3.7%
20人	1	1.9%
無回答	2	3.7%
総計	53	100.0%

③通年で人を雇っている (n=17)

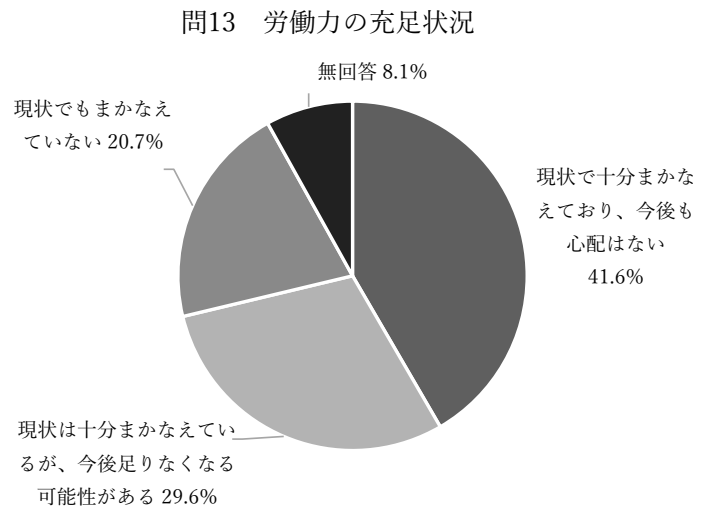
人数	件数	割合
1人	9	52.9%
2人	6	35.3%
3人	1	5.9%
4人	1	5.9%
総計	17	100.0%

問13 問12の労働力で十分まかなえていますか (○は1つ)

労働力については、『現状で十分まかなえており、今後も心配はない』が41.6%と最も高く、以下『現状は十分まかなえているが、今後足りなくなる可能性がある』が29.6%、『現状でまかなえていない』が20.7%となっている。

現状で労働力不足と感じている農家は、約2割(20.7%)

となっているが、将来的に労働力不足を懸念している農家は約半数(50.3%)を占めている。

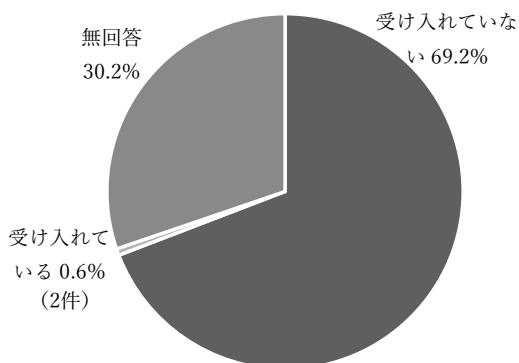


問14 労働力確保の観点から、外国人技能実習生の受入れや作業の一部を福祉事業所へ委託している(農福連携)現状と今後の希望を教えてください(それぞれあてはまる数字に○)

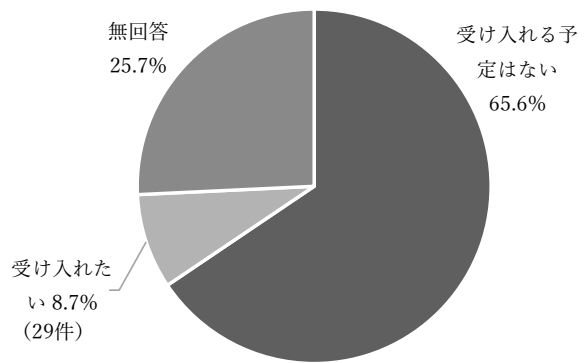
① 外国人技能実習生の受入れ

外国人実習生の受入れ状況をみると、現状で『受入れている』は2件(0.6%)にとどまっているが、今後の受入れ希望については、29件(8.7%)が受入れを希望している状況がみられる。

問14 外国人技能実習生の受入れ (現状)

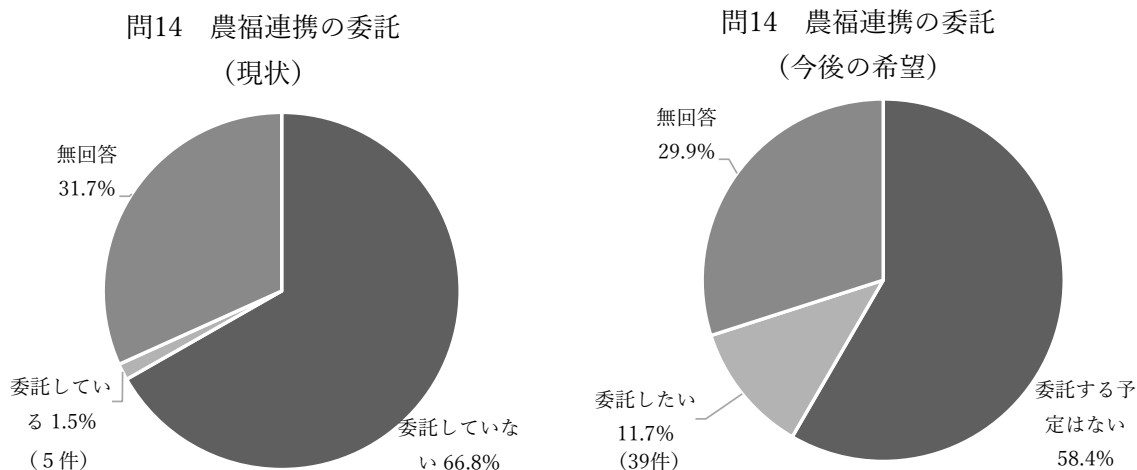


問14 外国人技能実習生の受入れ (今後の希望)



② 農福連携（福祉事業所へ作業の一部を委託）

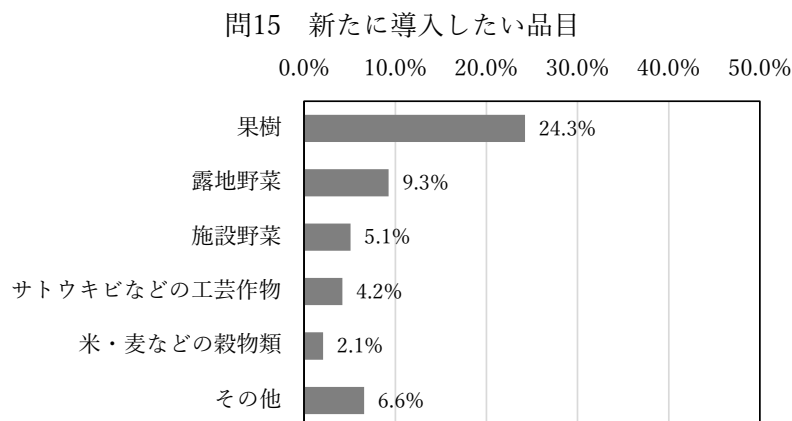
農福連携（福祉事業所へ作業の一部を委託）の状況を見ると、現状で『委託している』は5件（1.5%）にとどまっている。また、今後の受入れ希望については、39件（11.7%）が委託を希望している状況がみられる。



4) 今後の営農について

問15 あなたの農業経営において、新たに導入したいとお考えの品目があれば、お答え下さい。(あてはまる数字すべてに○をし、具体的な品目名もご記入ください)

今後新たに導入したい品目をみると、『果樹』が24.3%と最も高く、以下、『露地野菜(9.3%)』、『施設野菜(5.1%)』と続いている。



栽培に取り組んでみたい果樹の種類をみると、『マンゴー (17 件)』、『パインアップル (9 件)』、『アボカド (8 件)』などがみられた。(表 15-2)

露地野菜では『かぼちゃ (5 件)』、『冬瓜 (4 件)』、『モーイ』、『ゴーヤー』(各 3 件) などがあり (表 15-3)、施設野菜では『トマト (4 件)』、『ゴーヤー』、『きゅうり』(各 3 件)、『イチゴ』、『なす』、『インゲン』(各 2 件) などみられた。(表 15-4)

また、その他の内容では『コーヒー (7 件)』、『切り葉 (3 件)』がみられた。(表 15-5)

表 15-2

上位12	果樹 (n=81)	件数
1	マンゴー	17
2	パインアップル	9
3	アボガド	8
4	レモン	7
	パッションフルーツ	7
6	バナナ	6
	シークワーサー	6
8	みかん	5
9	グァバ	4
	温州ミカン	4
11	タンカン	3
12	ブルーベリー	2
	アテモヤ	2
	パパイヤ	2
	かんきつ類	2
	カキ	2

表 15-3

上位 5	露地野菜 (n=31)	件数
1	かぼちゃ	5
2	冬瓜	4
3	モーイ	3
	ゴーヤー	3
5	たまねぎ	2
	イモ	2
	ナーベラ	2

表 15-4

上位4	施設野菜 (n=17)	件数
1	トマト	4
2	ゴーヤー	3
	きゅうり	3
4	イチゴ	2
	なす	2
	インゲン	2

表 15-5

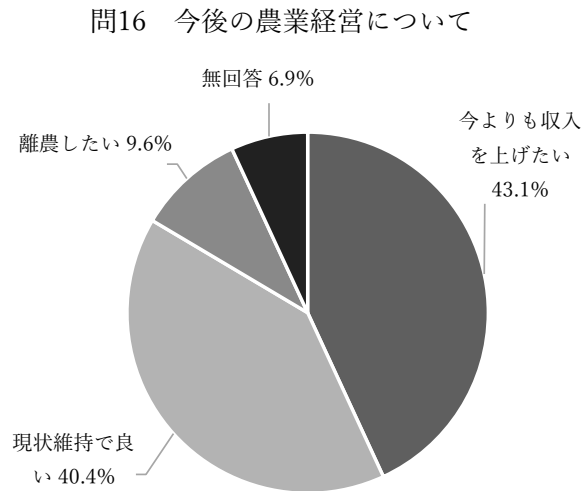
上位2	その他 (n=22)	件数
1	コーヒー	7
2	切り葉	3

<その他 1 件のみの意見>

果樹	インドナツメ/ライチ/島バンシルー/熱帯果樹/キウイ/その他 柑橘系/熱帯果実等/デコポン/夢クービー/スモモ/モモ/ビワ /オウトウ/カーブチー/タルガヨー
露地野菜	ウコン/マコモ/小松菜/キャベツ/パクチー/里芋/四季折々の 旬の野菜等/オクラ/スイートトマト/チンヌク/イモ類/シマナ ー/トウガラシ/なす/タイナス/パパイヤ/きゅうり/ラッキョ ウ/スイートコーン/ズッキーニ/人参/大根/スターフルーツ
施設野菜	やさい/ネギ/葉野菜/スナップエンドウ/オクラ
その他	畜産/モリンガ/ローゼル/バニラ/タピオカ

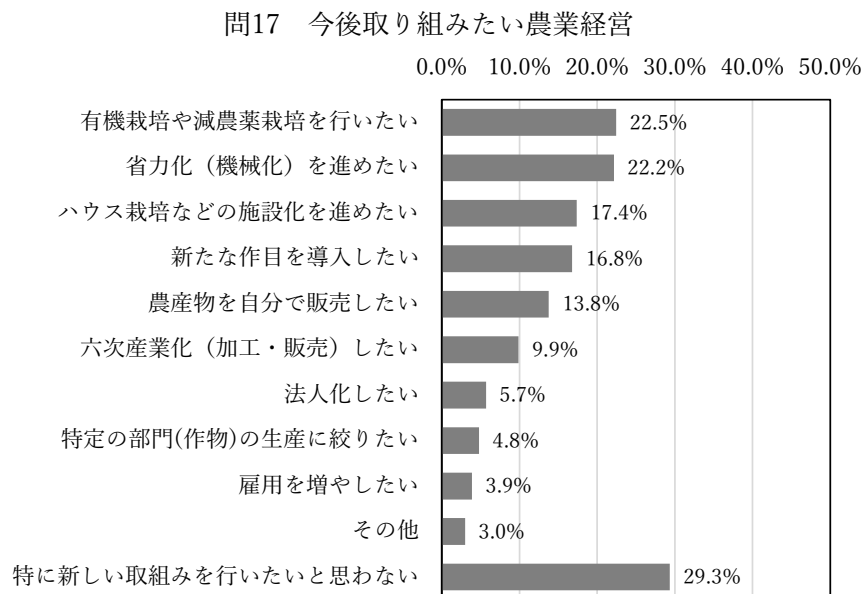
問 16 あなたの農業経営について、今後どうしていきたいとお考えですか。(○は1つ)

今後の農業経営については、『今よりも収入を上げたい』が43.1%、『現状維持で良い』が40.4%となっている一方、『離農したい』が9.6%見られる。



問 17 あなたの今後の農業経営について、どのような取組みを行っていきたいとお考えですか。(あてはまる数字すべてに○)

今後の農業経営の取組みとしては、『有機栽培や減農薬栽培を行いたい (22.5%)』及び『省力化(機械化)を進めたい (22.2%)』が約2割と高く、『ハウス栽培などの施設化を進めたい (17.4%)』、『新たな作目を導入したい (16.8%)』と続く一方で、『特に新しい取組みを行いたいと思わない』が約3割 (29.3%) 見られる。

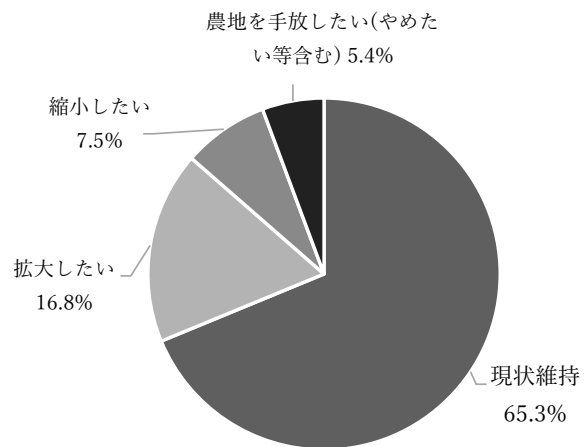


問 18 あなたは今後、耕作面積をどのようにしたいとお考えですか。(○は1つ)

今後の耕作面積については、『現状維持』が 65.3%と最も高く、次いで『拡大したい (16.8%)』となっており、2 割弱の方が拡大の意向を示している。

一方で、『縮小をしたい (7.5%)』や『農地を手放したい(農業をやめたい等含む) (5.4%)』の意見も一定程度みられる。

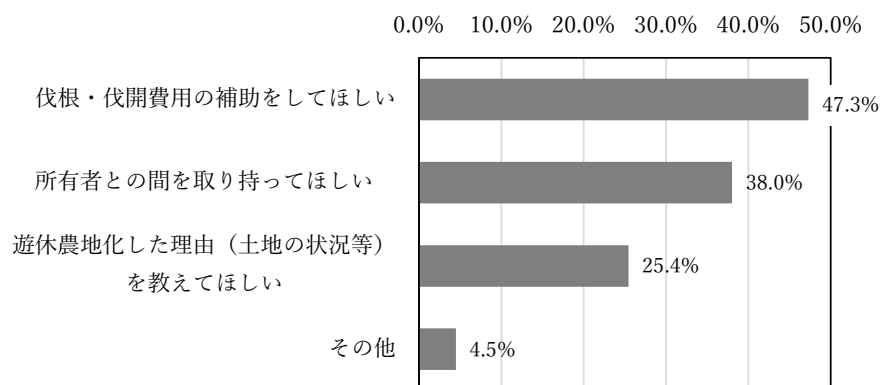
問18 今後の耕地面積



問 19 遊休農地の解消が喫緊の課題であり、市としても取組みを進めております。あなたが遊休農地を活用するとしたら、市にどのようなことを求めますか。(あてはまる数字すべてに○)

遊休農地を活用する際に市に求めることは、『伐根・伐開費用の補助をしてほしい』が 5 割弱 (47.3%) と最も高く、『所有者の間を取り持ってほしい (38.0%)』、『遊休農地化した理由 (土地の状況等) を教えてほしい (25.4%)』と続いている。

問19 遊休農地活用時に市に取組んで欲しいこと



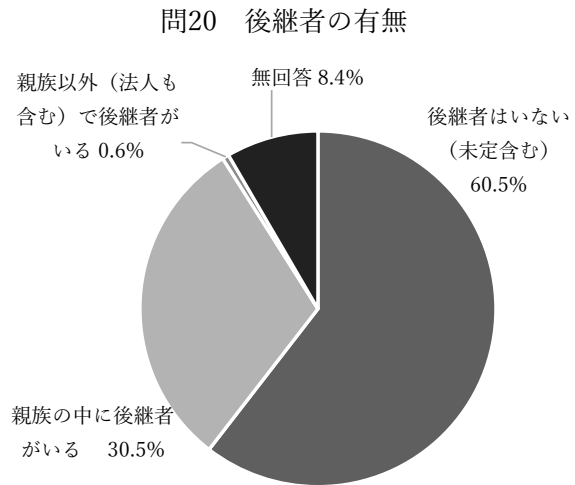
<その他>

施設導入、補助金／水の問題、農業用水の確保／農地の宅地化／農道の整備が急務です／遊休農地をまとめてもらいたい／借地料の補助をして欲しい／中間管理での利用料の請求書を出してほしい／市では対応ができない、もっと積極的に動いてほしい

5) 担い手の確保・育成について

問 20 あなたには現在、あなたの営農を引き継ぐ後継者はいますか。(○は1つ)

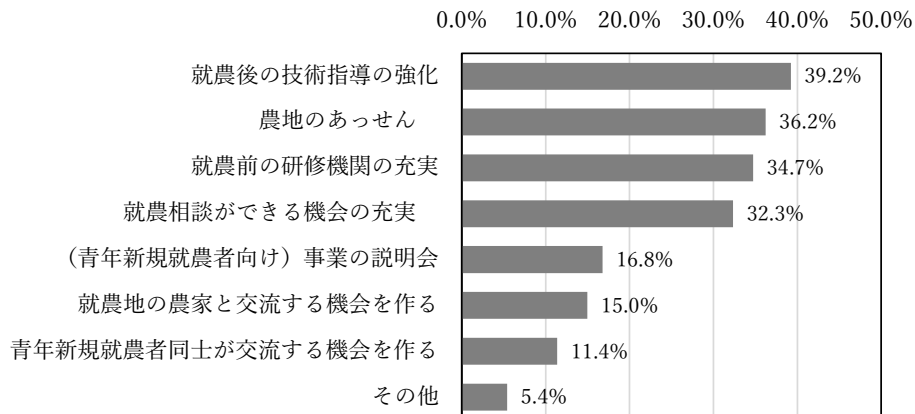
『後継者はいない(未定含む)』が約6割(60.5%)となっており、後継者が確保されている回答の割合は(『親族の中に後継者がいる(30.5%)』+『親族以外(法人も含む)で後継者がいる(0.6%)』)31.1%となっている。



問 21 少子高齢化に伴い後継者不足といわれる中、名護市で就農するに当たり、青年の新規就農者(45歳未満)が必要とする取組は何だと思えますか。(○は3つまで) ※ご自身の経験を参考にお答え下さい。

新規就農者に必要だと思われる取り組みとしては、『就農後の技術指導の強化』が約4割(39.2%)と高く、次いで『農地のあっせん(36.2%)』、『就農前の研修期間の充実(34.7%)』、『就農相談ができる機会の充実(32.3%)』がそれぞれ3割強を占めている。

問21 新規就農の取組みで必要なこと



<その他>

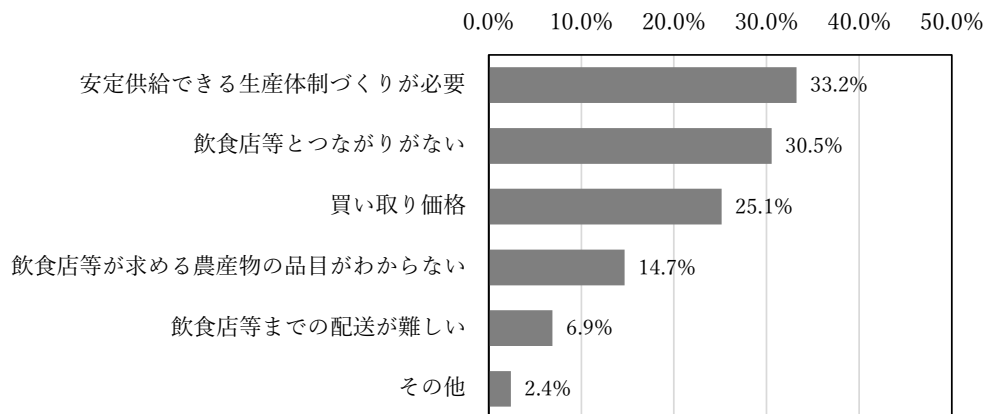
販売先の紹介/市が農機具の補助をすること/農家住宅の確保/就農するための費用の助成/資金などの相談/国の補助金の額を個人の助成に金額の割りあて。補助金-JA-組合=やめる農家/農業収入の増/生産部会の会員/買取販売/KSファームの事例、参考になると思う/販売先(契約販売が経営の近道)これで全て決まる/青年の新規就農者だけじゃない補助金/しっかり稼げるように経営的視点からのアプローチ/発想の転換必要/出荷先、販売先の斡旋

6) その他農業に関することについて

問 22 市内の飲食店、小売店や加工販売所との取引に向けて課題となることは何ですか。(〇は2つまで)

飲食店、小売店や加工販売所との取引にむけて課題となることは、『安定供給できる体制づくりが必要』が33.2%と高くなっており、次いで『飲食店等とつながりが無い(30.5%)』、『買い取り価格(25.1%)』、『飲食店が求める農産物の品目がわからない(14.7%)』と続いている。

問22 飲食店等との取引のにむけて課題となること



<その他>

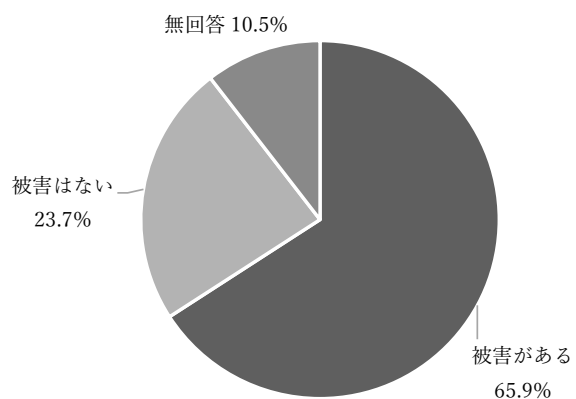
手間のわりに量が少ない／安定的に定数量買い取ってもらわないと取引できない／名護の食肉センターの人材を確保して欲しい／飲食店はファーマーズの品揃えで事足りると思う。日量 200～300kg 栽培すると飲食店が買い取れない。ファーマーズで品目買取りさせたらいい／農家の意識

問 23 あなたの農産物に対して、鳥獣被害はありますか。該当する内容に〇をつけて下さい。

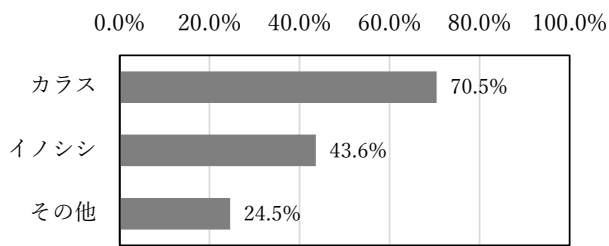
鳥獣被害については65.9%が『被害がある』と回答している。

被害を受けている鳥獣の種類としては、『カラス』が70.5%、『イノシシ』が43.6%となっている。

問23 鳥獣被害の状況



問23 鳥獣被害の内容 (n=220)



<その他>

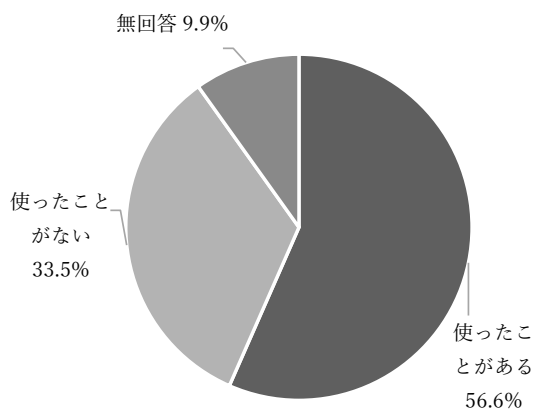
野鳥 (17件) / ネズミ (13件) / コウモリ (12件) / 害虫 (11件) / マングース (6件) / ハブ・人 (各3件) / 犬・猫 (各1件)

問24 名護市堆肥センターで生産された堆肥 (畑ものがたり、OK肥料、鶏糞のチカラ) を使ったことはありますか。使ったことがある方は、該当する内容に○をつけて下さい。

名護市堆肥センターの利用については、『使ったことがある』が56.6%、『使ったことがない』が33.5%となっている。

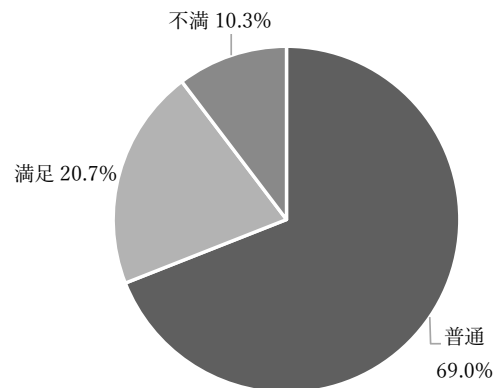
使ったことがある回答者の満足度は、『普通』が69.0%、『満足』が20.7%、『不満』が10.3%となっている。

問24 堆肥センターの商品利用



問24 堆肥の満足度

(使用したことがあるn=189)



使ったことがある

(満足と回答した方の意見)

値段が安いから (2件) / 補助金があるから (2件) / 価格が手ごろである / 安価で品質も良い / 価格と品質の面で満足している / 補助があり圃場まで運搬してくれる / 農作物の成長がよかった / 完熟堆肥 / これまでに県内産の C/N 比の低い堆肥が無く、県外のものを使わないといけなかった / 現在の価格を維持して欲しい / 使用後の効果を感じられる

(不満と回答した方の意見)

オカクジが多すぎる／根腐れがよくある／価格高い／もう少し安くしてほしい／完熟していない／キレイに発酵されていない／未熟／熟成が足りない／稚菌だと思う。(匂いが強い) 堆肥ではない／堆肥、肥料の効果が低い／全然知らない草が生えてくる／雑草が発生した／乾燥されていない／ニオイする

(普通と回答した方の意見)

安価(2件)／市の助成があり、他の堆肥より安かったから使用(2件)／値段がいい／補助があり安い／安価で求めやすいといいなー／手頃な値段で作業がしやすかった／価格が高い／価格がまだ高い／濃度が薄い／地産地消／高所得をするため／品質の劣化(初期は良かった)／効果がどのくらいあるかが分からない／堆肥について、1.水分調整にばらつきがある 2.腐熟度を高めること。作物の生育障害を起こす。／作物で何も影響がない／完熟堆肥になっていない／ペレットも利用したい／キビの新植時に袋物を利用している／たまに完熟していない塊が混ざっている／品質や植段等、他の製品とあまり変わらないから

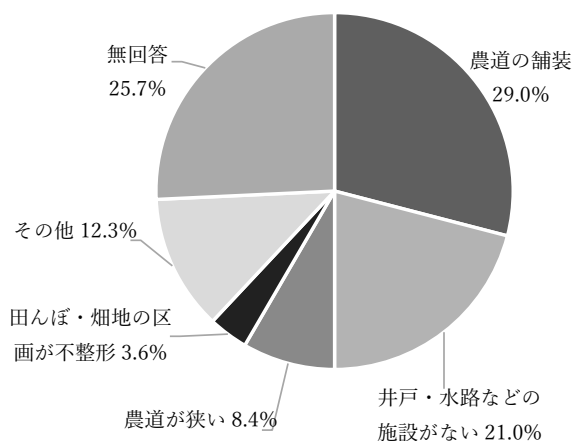
使用したことがない

知らなかった(2件)／聞いたことがない／見たことがないので／どこで購入できるのか／どこで販売しているのかわからない／どんな商品かもしれないし、パンフレットみたいな紹介がない。知るはずがない。／化成肥料を使っている／今の所植物系の肥料しか使っていない／米ぬか、自然資材(ススキのチップ等)／農協が推薦する肥料を使用している。／自家産の堆肥がある／作目に有効な自選肥料を使っているから／家畜のえさが気になって使えない／花き類は、肥料コントロールがむずかしい／堆肥の供給は間に合っている／友人からもらうことがある／色んなものが入っている

問 25 現在の農業基盤について改善が必要だと考えることをお答え下さい。(○は1つ)

農業基盤で改善が必要だと考えるものとして、『農道の舗装』が29.0%と高く、以下『井戸・水路などの施設(灌漑施設)がない(21.0%)』、『農道が狭い(8.4%)』と続いている。

問25 必要な農業基盤



<その他>

(農道について)

道がない／農道の補修、相談しても動かない／既設果樹園への農道設置への補助／農道サイドの倒木、雑草の定期的な管理／農道に草がかなり出ていて、車道がかなり狭い／農道沿いの除草。木枝がそのままある／農道の舗装はされているが、草や木などが生い茂っているため車などが来たら怖い／我部祖河久場又区ですが、私の畑と隣3か所のみ農道の舗装がなされていない／雨などで畑の道がえぐられ車を通しにくくなる。道ががたがた。土手が崩れてきたりして、目的地の畑に行けないこともある(2回)

(施設の老朽化)

ハウス老朽化／施設の修理の負担が多い／灌漑施設の老朽化に伴う改善／農業用水のパイプが度々破損するのでどうにかしてほしい。／昭和 50 年代の土地かんばい事業でパイプなどが老朽化している。どうにかできないか困っている。

(排水・水路)

農業用水不足／排水改良／排水路が悪い／大雨時の排水／大雨のたびに川が崩れなにか不安で心配している。／前からの水路が詰まって数年なにもしてくれない。畑が沼地(1/3)になっている。

(その他)

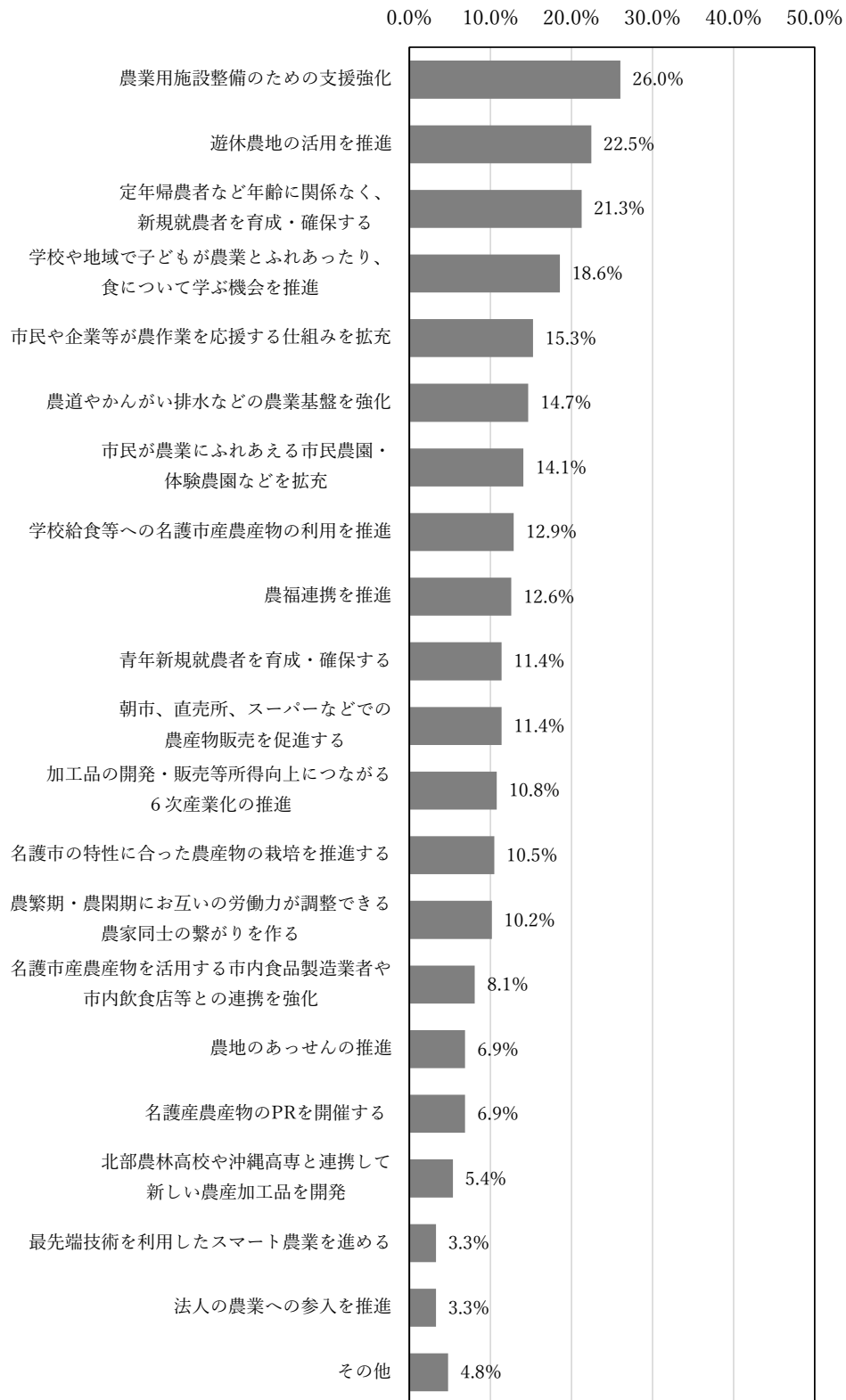
技術・データの共有／傾斜地が多い／土地改良地／土壌改良が必要／土地改良済みの農地が袋地になっているため改善が必要／倉庫などの規制が厳しく労働力がそがれる／農作物の泥棒が多い。道のそばなので柵がない／道沿いの遊休農地の草かげが交通の妨げになっている。ハブの危険などもあるので改善してほしい。／畑の近く、敷地内で生活したいのですが、農地の為小さな家を建てられない。年齢を重ねるにつれて、休憩が多くなってきた。暑さも有るので大変／農業やりたい方々のための農地がないこと／道路より低い畑の客土、機械の出入苦勞／現状でいいと思います

7) 農業施策について

問 26 名護市の農業をよくするために特に力を入れるべきこと。(○は3つまで)

今後特に力を入れるべき農業施策は、『農業施設(ハウスや農業機械など)整備のための支援を強化する』が 26.0%と高く、以下『遊休農地の解消(22.5%)』、『定年帰農者など年齢に関係なく、新規就農する方を育成・確保する(21.3%)』及び『学校や地域で子どもが農業とふれあったり、食について学ぶ機会を推進する(18.6%)』と続いている。

問26 特に力をいれるべき農業施策



<その他>

- ・生産技術指導、販売先確保。
- ・農業指導者の強化。
- ・特産品の生産向上。
- ・今帰仁産スイカのようにブランド化して単価を高く。安定した販売先があったらいい。
- ・名護市自体が販売する組織を作る（JAに頼っては、名護の農業は終わる）。
- ・作物を高く買うようにしてほしい。
- ・オーガニック宣言など、他市町村がまだやっていないことを推進する。オーガニック作物を高単価で売買できるように斡旋。JAの買取価格を上げさせる。
- ・自治体職員による有償援農、栽培されたものが売れる仕組みづくり。
- ・幅広い職（特に農業知識や簡単な大工的な仕事まで対応）できるシルバー人材の確保。
- ・2, 3日お願いしたいときに人材を確保できたらとても助かる。
- ・余計な補助金はおかしい。2年でやめる本土の人間が多い。無駄遣いだ。
- ・農林水産物流通条件不利性解消事業（補助金交付）条件変更への対応策を講じてほしい。赤土流出防止柵、廃プラ処理への支援強化。
- ・肥料が高い。
- ・農地が300坪以上ある場所は一部分に小さく住宅や休憩場所などを作らせること
- ・今は考えていない。

問 27 自由記入欄

生産性向上に関すること (15 件)

資材費高騰で新規ハウス建設は厳しく、農産物価格も上がることがないので、そこを埋める補助金など国や県とは別で実施してほしい。宜野座が充実しているとよく聞くので同じ北部地域として同等のものを提供してもらいたい。

農薬、肥料、農業資材の補助。

農薬、肥料、堆肥、補助を上げてほしい。

肥料(特に堆肥)の補助の増大。

農業資材の高騰で経営が厳しくなるので肥料などの補助割合を増やしてほしい。

肥料代が高い。補助金を出してほしい。

肥料や農薬以外の資材(梱包資材など)補助など対象を広げてほしい。

資材(農薬・肥料)が高すぎると思う。

害虫駆除(カミキリ虫)の根絶。ミカンのみきに穴をあけ枯らす。

農業用水の利用料の負担がきつく、農家の利用料軽減をしてもらいたい。

物価も上がり、農薬、堆肥、肥料やハウスの補助事業に力を入れてもらえば農民は助かります。

名護市役所農林水産部にお願いがあります。肥料、農薬、燃料代がものすごく高騰しています。今の価格より安く補助できるようにしていただけたらと思います。

浄水設備の拡充、農道の舗装、堆肥、肥料に対する補助率のUP、防風林を植え、圃場、ハウスを台風から守ることを考えるきっかけ作り、講習会や資料の配布など。

害獣対策を徹底して欲しい。A. イノシシ：かぼちゃ、サツマイモ、たんかん、トウモロコシなどを作る場合、畑にワイヤーメッシュ。電気柵などがないと被害が出てしまう為、その設備の補助があると助かる。B. コウモリ、シロガシラ：温州ミカン、たんかん防除ネットの補助があると助かる。

JA 含め、各しぼり工場の安定出荷の見通しがなかなかつかず、農業する上で不安になっています。勝山シークワサー工場などは、ここ数年安定出荷できずにいます。

新規就農・後継者確保・人材確保に関すること (11 件)

農業高校、農業大学との連携。農大卒の採用。

生産者の高齢化に伴う後継者の育成。

農家住宅を確保する為、農地にでも住宅を作れる様にできないものか。後継者不足と言われる中、後継者はいるのに住む所が無いという理由で後を継がないことになっている、農家住宅ならば農振除外も早めに行うような政策もできないものか意見として記します。

農業施設の補助の拡大。農業環境施設の整備。
若い世代の農業者を支援するために考えられるすべての施策をやることだと思います。
定年退職者を対象とした借農園を作り、農機具は購入せず現農家に請負させ、資本投資の不用な農業なら、希望者は多数いると思いますが如何ですか。
農業する人の高齢化が進んでいるので若い子が入ってきてほしい。年齢いっても農業人口減っているので新規参入してほしい。
農業の後継者が少ない現状の中で、好きな人が一代で農業できる仕組みの確立のため、市や字が離農者の農地を買い取り、就農者へ農地の貸し出す取り組みを行うことを望む。
①自分の周囲に多くの若年農業者がいるが、何か可哀想に思える。ほとんどは県外からの移住者。②沖縄の農業(所得)の現実を知らずに、ほとんどの人は夢を抱いて就農のため来県したのだと思う。新規就農補助金で軌道に乗せられると思ったに違いない。
③(結論)(イ)新規就農者の定着状況、離農状況を早急に把握して、若年就農希望者、現農業従事者に明らかにして欲しい(県との連携が必要)(ロ)まず(イ)を踏まえたうえで、本腰を入れた彼等の生活実態の向上に向けた対策をお願いしたい。(県との連携が必要)(ハ)(ロ)の行のサポートが出来ないのであれば、名護市は今後農業を美化したり、夢を持たせるような広報、誘導を慎んで欲しい(もちろん県も含めて)現農業青年の幸を願って!
シルバー人材みたいなもの。週末農業ボランティア(賃金出しますが)してもいいよ~みたいな20代~40代・50代?の人材センターがあってもいいのかな?年齢が増すと力仕事が大変で肥料・たい肥を入れたり、草刈り作業をしたりする人がほしい時があります。
農業の後継者を得ることは難しく、親族が継いでいた過去の形態は今では少なくなっていると想像します。先祖伝来の土地は使えるが伝来の農業は重荷となる。勤め先の定年後、後継するケースもあるが、農業就業年齢の高齢化が解決することはない。農業を志す若者もいるが、入口で迷う。農地、農業技術、配偶者との家庭の構築等々多くあると思います。耕作放棄地は増えるが、新規営農で農地取得が容易ではなく苦勞する人もいる。農地を他人に提供することへの抵抗感、親が苦勞して守り育てた農地を他人に明け渡すことへの親族からの反対圧力もある。農地の一元管理と農地保全の農業法人の育成や新規就農者への貸し付けで所有権と耕作事業が両方安心して提供・参入できる仕組みが必要だと思います。
生産基盤に関すること (21件)
屋部地区は畑までの農業用水がなくほかの地域より遅れている。水は非常に大事だと思います。農道も舗装もした方がいいと思います。
老朽化ハウス修繕を行う補助事業を導入してほしい(サビが多い)

<p>遊休地農地の活用。道路端の除草作業。見通し悪く交通の妨げになって注意してほしい。</p>
<p>スプリンクラーが老朽化しているので整備点検補充が必要であり市としてもサポートしてほしい「久志区」内。</p>
<p>農業用水の確保が一番必要です。</p>
<p>農地までの道路の整備。</p>
<p>台風にも耐える大型ハウスを整備してリース方式で新規就農者へ貸す。</p>
<p>特に屋部地域の農道整備(長筋山等) 水利施設の整備などが遅れている。⇒早急な対応要望。</p>
<p>農業している人などへの補助金(ハウスの修理、農業機械)を拡大してほしい。農業は年収が少ないから。</p>
<p>1.農道、砂利道をアスファルト舗装の道路に整備してほしい。2.荒蕪地解消に努めてほしい。3.遊休土地(農地)活用 4.遊休農地に関する措置及び耕作放棄地再利用対策。5.農道が荒れ放題(草に覆われている) ※刈ってもすぐ生える。雑草対策が必要。上記対策はアスファルト舗装の道路が一番です。 ※更なる農林水産振興に努めてください。(お疲れ様です)</p>
<p>アンケート調査だけで終わってほしくない。具体的に動いてほしい。 灌漑施設のない屋部地区は農業の発展は厳しい。個人で灌漑施設(井戸、飲料水)を整備した。市にお願いしても返事すらない。市は真剣に農業の事を考えているのかわからない。市議にもお願いしたが動いてくれない。ネガティブな事だけを言ってすみません。市は農業の可能性があると思う。JA と仲良くしてファーマーズマーケットを盛り上げてほしい。</p>
<p>農道の舗装。幹線が舗装されてなく、支線が舗装されているところがある(小さい山道はよく舗装) 政治がらみで議員さんの多いところが優先されているのか。疑問に思う。不平等感がある。</p>
<p>勝山地区はかんがい排水施設がないので導入してほしい。農道や管理道など舗装があまり進んでいないので推進してほしい。土地改良も大規模改良整備でなく自然にあった段々畑のような自然も残しつつ小規模改良できたらと思います。</p>
<p>1.遊休施設(ハウス) の整備、利用、斡旋 2.ハウスを建設しアパート経営みたいに月額/20,000 等で借用させる。農業経営ができないと判断した時点でハウスから出てもらい、新しい農家に借用させる(新規)。メリット: 離農した農家は大きな負債を抱えないで済む。(離農できる)。多額の負債を抱えないで農業をさせる事。 3.遊休農地の活用 メリット: 農地を求めて農業経営をすると支払いが負担となって離農するケースが多くなる。遊休地活用ならその必要がなくなる。生活できることがすべて。</p>

4.営農形態の確立

沖縄農業は冬春季を県外出荷で強化してるか？実質 8 か月で年間分の収入を上げないといけない。だから、夏場の品目を確立できるとかなりの収入を上げることができる。

5.農業機械の貸出（リース）

トラクター等は年間 4～5 回しか動かさないのに、多額の資金が必要になる。多額の負債を抱えないで栽培させることが重要。

遊休農地を所有しています。農地を貸したいですが、借りる人がいません。役所が積極的に借りたい人と所有者との間に入り取り組んでいただきたい。また、自宅から離れた農地は全部売却したい。役所の斡旋があればとてもありがたいです。

北部振興で沢山のハウスが建っていますがだいぶ老朽化しています。新たにハウスをたてるには多額の資金がかかりますが、今建っているハウスをメンテナンスすることで長い期間使用することができます。ハウスが老朽化すると多分に遊休農地が増えると思います。しかし農家がメンテナンス料支払うと負担が大きくなるのしかかってきます。行政の力で助成できれば今あるハウスを有効に末永く使用できるのではと思います。

1.サトウキビ作りについて：近年、地域では高齢化や労働不足等など、さらに農地の区画も小さく機械も厳しい状態で不毛地が増大している。現状でサトウキビ作を続けるには刈取作業の機械化推進する為に刈取料 5,000 円/t を 3,000 円/t にすれば老人でもサトウキビ作を続け継続する人が多数います。要するに 2,000 円/t を助成してほしいのです。サトウキビ作の復活です。

2.野菜や果実等の施設栽培の推進：定年退職者向けの小規模ハウス事業の取組 100～200 坪ハウスがあれば農業志向の定年退職者の生活費も補填可能です、是非事業の取組を。不毛地の解消、地域活性化に繋がります。

生産資材費が高く農業のメリットがなく、十分な生活のできる収入を得られるようになればおのずと就農者は増えるので、機械化をすすめ、又 IT を利用したドローンなどを利用した重労働の軽減を支援する体制を構築することが重要である。農業は就農者だけが関係するのではない。景観、自然保護、防災の観点から政策を進める必要がある。特に名護市は市街地と農業地域山林があり、市民の癒しや市外からの観光が見込める可能性があり産業間の連携も考える必要があると思う。

私は 20 歳ごろから花づくり(キク) を 45 年間やってきました。体はボロボロで首もヘルニアでめまい等体調不良で花作りはやめました。おかげ様で北部振興の事業でハウスを導入しました。その後長男も加わり、一緒にやっています。私一人でやっていくには何とか生活ができたのですが、長男家族も一緒だと厳しい状況が続きます。今の世界的な状況では、まともな運営はできません。今でもいっ

ばいいっぱいの経営なのに、これ以上やると、生活できません。コストUPに繋がり、生活ができません。他に収入があればよいのですが、今の沖縄農業は将来がありません。売れる作物、高単価の作物は本土市場でしか高単価が出ません。しかし、今の運賃や流通経費だと、県内単価と変わらない。はっきり言って、どんなことをしても、アンケートに答えても、肥料、農薬、生産資材、運賃、その他いろいろ考えるとスタートから赤字という事になります。行政がどんなことをしても採算割れしています。儲ける農業をわかるのであれば、行政の方で教えてもらいたいです。ですから、農業したい方がいれば、年は関係なくあるいは本土の方とか外国人の皆様にも参加させて就農する機会をつくってあげる、今市役所は若者の後継に取り組んでいますが、今の少子高齢化では、全ての方々に農業をする機会を与えるべきです。そして、その方の意見を聞き、地産地消を進めるべきです。行政が今足りないものはネットワークづくりです。後継者だけがすべてではないし、皆が農業に参加できるようにすればよくなると思います。すみません。勝手な事ばかり言って今後とも行政の皆さんの応援よろしく願いいたします。

- ①耕作放棄地の解消 1.キビの植付 4~5名で農業法人する。2.小麦、そばの植付。
 ②キビ刈取りハーベスターへ助成してほしい。1.現在オペレーターへ5,000円/ト支払っているが、市より1,500~2,000円/ト助成すれば生産意欲が向上する。以前に比べてキビの数量が上がりにくくなっている。③ハウスなど公金で導入しており、放棄した畑は法律で他人(農業希望者)へ耕作させてほしい。④農業機械へ市からの助成金。

農作物の消費拡大に関する事 (7件)

- 生産したものが確実に販売できる仕組みを創ってほしい。
- 出荷調整が可能な冷蔵庫の整備を行う。指定管理をさせる。
- 名護市は人任せ。業者任せが多い！自ら特に販売にふみ出さないとダメ。
- 地産地消や消費拡大などはなぜ消費拡大なのか？なぜ地産地消なのか？
 ⇒現状では名護市自給率が低い。⇒目標値を設定し、何年で達成？⇒役所が事務局旗振りして農家集める。※農業者主導では続かない！
- 羽地に籍をおいていますが、今のところ羽地米がブランドですが、他の野菜のブランド力に何かあったらいいなと思う。それにむかってそれを作って、羽地や名護市のブランド品になるような。みつけて、それにむかって作っていけるような、そうしたらそれに向かって頑張っていけそうな気がする。ぜひみつけて、そしてみんなで名護市はこれといったブランド品を！！
- 名護市の特産物が特にないのでこれは名護市の農産物だといえるものが必要と思う。
- 豊見城市→マンゴー、東村→パイナップル、今帰仁村→スイカと市町村がバックアップしてそれぞれブランド化されています。私たちは、マンゴーを栽培していますが、

<p>名護市でもマンゴーを栽培しているの？と聞かれます。名護市も特産品をもっとPRしてください。また、農道ですが道沿いの草枝は伸び放題で約2kmの農道沿いを自費で人を雇い草刈りをしました。</p>
<p>他産業との連携に関する事（3件）</p>
<p>北農と高専との取り組みは今すぐにでも始めたいことであり、名護の農業ならではの加工品や商品開発を進める。</p>
<p>羽地米や名護市で作っている農産物を学校給食に大いに使ってほしい。</p>
<p>羽地地区は今後嵐山のテーマパーク開園も控えているので、農産物の直売所、観光農園など、農業に関わる施設を増やして”美味しいお米と野菜のまち”として盛り上げたい。</p>
<p>新たな地域資源の発掘（2件）</p>
<p>市民農園の整備。又吉観光農園をモデルとした、農業を目指す農業法人の整備と資金の提供。</p>
<p>グアバを販売してます。沖縄・日本へのアジアからの移住者の方々が好んで食べるのですが、輸入ができない為、日本国内で買うしかないと聞きました。最近あちこちで植える方が増えてきているみたいですが、例えば名護市でもグアバ農地、グアバ産地をアピールできるくらい増殖してみるのもと思いました。個人的に出荷しても、アジア系の人や県外の方に転売されてしまっています。それを承知で販売するのもおしい位です。早めにアジアの農産物を生産し、特化していくことがポイントになるのかも。転売価格が大きすぎる。宮崎県にこされてしまいます。ファーマーズの手数料もかりますので、市が買い取り、販売すれば売り上げも税収にできるのでは…そんなアイデアがほしいです。</p>
<p>その他</p>
<p>（農業政策について：4件）</p>
<p>名護市の農業政策にかかわる人は、せめて年に数回位農業にボランティアに来て農業を知ってほしい。趣味の園芸は農業ではない。ひとり農業も先はないと思う。農業は自営業というけれどしっかりした事業計画と費用対効果が得られなければやるべきではないと思う。行政の支援は現に農業を業としている人(法人)に将来を見据えた支援をしてほしいと思います。</p>
<p>農機具等の国、県、市町村の補助事業については厳正に市の責任でしてほしい。農業委員や農協に任せることなく、市で行ってください。</p>
<p>名護市が目指している農業ざっくりでもいいですので指針を作ってほしい。例えば①SDGsを目指すとか？②名護市の3ブランド品づくりとか？3年スパンでもいいと思う。失敗したらやめればいい。</p>
<p>私は15年三重県で物流をしていました。感じたこと、(生産工業地帯)(工場)が二つもあり。県や市に対しても(誘致)が叶わないのであれば、農業政策に力を入れてもらいたいと思っています。PSありがとうございます。</p>

(農業所得の向上に関する事：3件)

農業で子どもたちを大学まで教育できる所得が欲しい。農業で年間何千万円の所得がないと子どもの教育家計の維持ができない。したがって兼業となって現金の入るサラリーマンへと軸足を移していく。

専業農家で生活できるマニュアル作り(年収300万円)、施設は充実(農道、灌漑、機械化、農地整備補助)、害虫の事(設置と農家と連携等農薬散布の支援隊)、新農法で生活が立てられる情報提供。農薬普及場、加工場の設置。

農業収入だけで生活できるように行政がバックアップしなければ今後の農業は衰退していくばかりだと思う。台風の多い沖縄で、どのような作物を育て、どのように販売していくか等々課題はありますが、官民協力して乗り越えられたらと思う。

(情報提供について：2件)

国や県などが出す農業関係の補助や資金借入れなどの政策などをなかなか農家側では情報をキャッチすることが難しい。もっと市でも積極的にそういった情報を出すようにしてもらいたい。

色々な支援事業の告知をしてほしい。オーガニックの推進。皆さん親切で丁寧な対応をしてくれるので相談しやすい。

(その他：18件)

アンケートだけではなく実践してほしい！

何十年しても同じ考えとアンケート。進歩無し。

行政の介入が必要。小作農では値段の高騰は望めない。一律化。

以前から気になっている事ですが、国や県からの補助事業などの取り組みの話が出て、それに飛びつくようにあちこちに農業施設が作られ、それが2~3年するといつの間にか放置され草や木が生い茂り見るも無残な姿になっているさまを数えきれないほど目にしています。調査をきちんとしての結果で工事も着工はされているはずですがなぜこのような結果が出るのでしょうか？それも多数！アンケートを取り、申込者を募り色々調査をして工事着工となるとと思いますが、もっと掘り下げて一時的なものではなくきちんと農業に前向きに取り組める申込者かどうか等、事前調査をしっかりしたうえで実行しては？と思います。国や県の補助とは言え莫大な金が動くことです。ひいては私たちの税金でもあるのでは？補助事業等の話が出るたびに自分は実際に農業に携わらないが、うまい話だと利用する輩も多くいます。その結果がこうなるのでは？後継者のいない私たちは、ある意味うらやましい目線で見えていましたが、高齢となった今では、与えられたものを二人でこなしていくしかないと思いつつ、気になる事を意見として書きました。

多くの農家から声をひろいあげる。(実際、農場へ来てもらい農場状況の確認、指導も必要)

キビは補助金があるのに、茶はない。茶は補助金がないのでやめたい。
(キビに切り替えたい。その場合の補助金ありますか?)

飲食物は生命の源。人の健康幸福自由平和を創造する。宇宙の秩序(法則) 自然に則る農業以外に道なし。商業主義、営利主義だけでは人間が犠牲になるほかなし…新しい世界、社会の創造の第一歩。

このアンケートに回答したからと言って何が変わりますか?やる気のある農家に対して、もっと動いてほしい。農家の立場になって考えてほしい。

- ①名護市は中南部の市町村より農業のありようが違う。
- ②農業の衰退が進んでいる。

特に思い当たることはありません。という事は名護市の農業政策が順調であると思います。目立たないお働きだけに、ありがたく思っています。

お疲れ様です。アンケート調査を実施することで農業に対して明るい光が差してきたように思います。定年後、夫と二人で農協の指導を受けながら始めた農業ですが、夫が死にサラリーマンをしていた息子が継いでくれ10年になりました。収穫中に台風で全くダメになったりハウスのビニールが飛んでしまったり大変ですが、山の生活が楽しく体が動く間、野菜作りに励んでいくつもりです。いろいろご協力、感謝します。

農地や遊休農地はずいぶんあると思いますが、地主が市内にいなかったり農業するにしても農地が小さく家庭菜園程度が多いので、それに台風もあるし、なかなかそれで生計を保つには限界あり難しいと思います。名護市としてはなるべく、農振地を外して、自由に開拓させていただきたいです。

農業も大切ですが、観光業も沖縄にとっては大事なので農業をしながらの施設も必要なので、農振を外さないと施設の設備がうまくいきませんので農振を外してください。お願い致します。

山林は農振でもいいと思うが、道路の横に更地があって駐車場に使いたいのが農振だからという理由でそのままほったらかしの状態がもったいないですよ。

農業は名護市内でもしているので離れた場所にまでは時間がかかって行くことが出来ないのです。

健康(薬膳)と農業。植物の機能と体。

有機栽培農家を増やしていく。盛な市にする。それに伴う国からの支援を受けやすいように国と農家のリレーションをとりもつとか。

問 25 でも書いていますが農地専用のため(休憩用)家を建てられないと聞きました。自宅からの往復も大変ですが、収穫物の選別や袋詰め等は自宅で行っている為 運搬から販売までタイムロスが発生したり、一人でやれる範囲も限りがあります。せめて日中に休憩したり食事をしたりできる 部屋を設置することができれば、畑にかける時間も増やせるし、地の方(バイトなど)へお手伝いもお願いしやすくなると思います。

私と同じ様なケースのお話をあちこちで聞きました。特に農地専用？親から引き継いで行っている農業ですが、自分の子供達が引き継ぐとは限らないし、いざ売りたい時が来ても、農業者へしか売ることができないと聞きました。土地の活性化、人の交流のためにも、その辺りの規制の見直しも必要なのではないかと思っています。農業委員会のあり方など。

JA、行政が、もうかる農業、利益の高い農作物の選定、指導してもらいたい

農業振興も大事ではあるが、所有地に子や孫が住めるように農振地域でも緩和してもらいたい。そうしないと地域に人がいなくなり地域が成り立たなくなるのではないか。

2. 関連団体等意向調査の概要

名護市内の農林水産業に関連する組織・団体等（農業委員会、農業協同組合、漁業協同組合、森林組合等）を対象にヒアリング調査を実施し、名護市の第一次産業における現状や課題、将来展望等について確認を行うため、市内の農林水産業に関連する組織・団体等へのヒアリング調査を実施した。

以下のその概要を整理する。

（１）農業

1) 名護市農業士会

- ・農業士会として、単に新規就農者の数を上げるというよりは、各人の就農意欲等を勘案し、本市の農業の担い手として継続的に営農できる人材を見極め、行政と連携して担い手の確保・育成に取り組んでいきたいと考えている。
- ・農業士会では新規就農者の掘り起こしや担い手支援に取り組んでいるが、各団体が担う役割を整理しそれを周知することで、ケースに応じた相談窓口が明確化され新規就農者の課題解決がスムーズになるのではないかと。
- ・優良農家から指導農業士を発掘していきたいと考えているが、認定基準で定める所得要件が高いハードルとなっており人材の確保が進んでいない現状にある。
- ・技術指導が可能な農家を登録制度のような仕組みで確保し、新規就農者とマッチングができればと感じる。
- ・農業振興に携わる担当者に農業専門の職員の配置を希望したい。
- ・行政、農業士会、新規就農者間での連絡やコミュニケーションが取りやすくなるように、連絡網の整備はできないか(個人情報取扱に課題はある。)
- ・新規就農者等の担い手との情報交流の場があることにより、担い手の意識の変化を促し経営力向上が図られるのではないかと。
- ・担い手事業に関わった新規就農者でコミュニティづくりを行ってもいいのではないかと。
- ・新規就農者が切磋琢磨するきっかけづくりとして、相互の圃場を視察する機会を設けてどうか。特に担い手事業を受けている者は交付要件として義務化してはどうか。

2) 羽地大川土地改良区

- ・農業振興地域の土地利用に関しては、農用地指定の継続・解除による観光地化した地域との地域間格差が生じており、現状を把握した上で農業振興をどう進めていくのか、土地利用の方針をどう固めていくかが課題だと思う。
- ・新しい整備計画を進めるためには、都市計画マスタープランと人・農地プランとのギャップをどう埋めるのか、農業者や地域住民へどう理解を求めていくかが重要である。
- ・土地改良区は、受益対象地区(1,028ha)の土地利用状況と生産状況について把握し、水の供給に関する情報提供や営農環境整備を支援する農業振興に寄与するアドバイザ

一的な位置づけの組織であるべきだが、現在、施設の老朽化に伴う修繕対応が主な業務となっている状況である。

- ・計画的な施設更新に取り組んでいきたいと考えている。
- ・名護市水道部の協力の元、送水管や支弁等の点検管理の技術研修を実施している。今後更に技術研修を増やしスタッフの技術向上を図っていきたい。

3) 名護市農業委員会

- ・農業委員会として、国施策に基づき最適化活動（農地の集積、遊休農地の解消、新規参入の促進）に取り組んでいる。
- ・農地集積に向け、羽地地域の米生産農家による集落営農モデルの構築ができたかと考えており、当該地域における権利設定の課題に対し農業委員会が地権者と話し合い・交渉を行い整理していく必要がある。
- ・遊休農地の解消に向けては、現在保有している農地情報の整理を行い優良農地の活用を促進していく必要があると考えている。
- ・1年以上放置され農業での土地利用が難しくなっている農地が増えている。
- ・新規参入の促進では、地域農業とのパイプ役を担う農業委員会が各地域での第一窓口となり積極的に相談を受け、新規就農の間口を広げていく。今後、地区毎に月1回開催している推進会議と併せて新規就農相談を開催できたらと考えている。
- ・新規参入希望者の初期投資の負担軽減となる農地提供の取り組みが必要かと思う。
- ・県内市場の大半が本島中南部に集中しているため、名護市産農産物を県域で消費していくという地産地消の考えを持つことも良いと思う。
- ・名護市では、県内で生産されている作物ほとんどが生産されており多種多様な品目が栽培されている状況である。
- ・大企業が沖縄でのコーヒー生産に参入している事案がある。コーヒーは機械化が難しく人手が必要となる点に課題がある。

4) 沖縄県花卉園芸農業協同組合

- ・組合としての課題は、後継者不足、雇用不足、農薬散布の省力化、農業経営力の向上などがある。
- ・省力化に向けた取り組みとして AI を活用した農作業、植物生育管理アプリの活用、病虫害・病原菌 AI 診断、植物生理障害 AI 診断を実施している。
- ・生産者が市場ニーズに対応すべく品質（鮮度）、選別の強化を図り沖縄産ブランドの周知を行っている。また需要と供給バランスを把握した生産体制を構築し、安定出荷・安定価格を目指していきたい。
- ・キク類の安定出荷と出荷拡大を図ることで安定した所得の向上を図ってきたい。また現在生産している品目の実態把握と経営改善の検討や適地適作の新規品目の開拓なども行ってきたい。

- ・今後、地産地販売促進イベント（祭りやキャンペーン等）とコラボした花の消費拡大や小学校での花育授業の実施を市と協力しながら行っていきたいと考えている。

5) JA おきなわ 北部地区営農振興センター

- ・野菜はオクラやゴーヤー等、果樹はシークワーサーやたんかん等が主力品目である。加工品についてはシークワーサージュースやパイン缶詰等がある。販路は品目によって様々だが県内中心である。
- ・ファーマーズマーケットの状況としては、コロナ禍ではあるが売上が右肩上がりである。地域の方々の利用が主であるが観光客の需要もあるので、今後更にイバウンドの集客も見込めると考えている。
- ・ファーマーズマーケットの課題として、季節によって出品される農産物の偏りが見られ消費ニーズに対して生産対応ができていないこと、出品農産物の品質にばらつきがあることが挙げられる。販売は生産者の責任を基本とするが、出荷や品質等の基準がある程度、店舗が管理する必要があると感じる。
- ・顧客から「冷蔵庫の棚持ちが良い」との声があることや、ハーブや流通に乗らない特殊な野菜等を買求めることができる点などはファーマーズマーケットの利点と考えている。
- ・JAS 栽培や特別栽培認定の作物の取り扱いについては、農家個人での PR は認めているが、平等性の観点から店舗側での差別化は行っていない。
- ・農家の高齢化と労働力不足に加え、近年生産コストが高騰しているが、生産コストを販売単価に転嫁できていないことが農産物の弱みとなっている。
- ・組合員の大半が 65 歳以上で生産力が弱まっている状況である。
- ・労働力不足の課題に対して、外国人技能実習生の活用や一部作業委託している農家はいるが、現状十分に対応できていない状況である。各農家が中長期で人材を雇用することは難しい状況にあり、スポット的な労働力を必要としていることが伺えるため労働力をマッチングさせる仕組み作りを行いたいと考えている。
- ・屋我地に新規就農者の研修施設があり指導員と連携を取りながら指導を行っているが、思うように人材育成が進んでいない状況にある。
- ・後継者が育つには、基礎技術も必要だが個々の経験で得た知識が一番重要になると考えているため、意見交換や情報収集、技術交流等も JA としてサポートしていきたい。
- ・スマート農業・AI については、積極的に取り入れたい意向はあるが、生産体系が小規模なため現状は費用対効果が見合わない状況である。今後機器の価格が下がれば導入しやすくなると考えている。AI の活用は若い農家は関心を示しており、JA としても技術革新や負担軽減への支援の一環として部会を中心に情報提供を行っている。
- ・JA としても、ふるさと納税返礼品の活用を検討したいと考えている。
- ・新規就農にも経営規模拡大にも土地の確保が重要である。耕作放棄地対策事業の活用や行政や農業委員会等と連携した農地流動化の仕組みづくりを行い、農家がスムーズに土地の確保が出来る体制を構築したい。

- ・かんきつ類の選果場は機械導入から 20 年ほど経過しており、維持管理費用がかかっている状況である。費用対効果の面で課題はあるが施設導入に対して支援を頂きたい。
- ・市場に出すには一定量を出荷する必要があり、作りたいものだけ作ると価格形成が成り立たない。そのことからコストダウンの為にある程度優位性のある品目を押し進める必要があると考えている。拠点産地の形成もその取り組みの一つであり、戦略的に栽培作物を選定し取り組んでいきたい。
- ・農業用機械の導入に農家の課題がある。農業機械は高価であり導入をすると経営的に厳しくなる。ある程度の機械の種類を取り揃えてレンタルができれば良いが、オペレーターや機械の維持管理に課題がある状況である。
- ・農業用廃プラスチック類の処理に関して、手続方法に変更があったことで手続きが煩わしくなったため、農家から手続きの簡素化ができないかとの声が挙がっている。

6) JA おきなわ 北部地区畜産振興センター

①肉用牛

- ・生産農家が事業規模拡大を行う場合、牛舎を建設するための用地確保や餌となる牧草を刈り取るための機械の導入、草場が確保できない場合の牧草購入費用等の資金面の課題が挙げられる。
- ・現在、餌や肥料の価格高騰により農家にとって非常に厳しい営農環境にある。
- ・肉用牛の新規就農者の農業基盤(資金面や土地の確保、牛の購入方法、飼育技術力等)の形成の道筋が整理されていない状況である。
- ・肉用牛の飼育方法等について学べる機会の創出やモデル農場の検討、新規農家を受け入れる農家への助成や支援の取り組みがあると良い。
- ・母牛の増頭に対する助成金の利用条件が厳しく、利用条件の見直しが必要だと感じている。
- ・牧草を安く提供できる人材や草場を確保するための支援・仕組みづくりができれば、増頭に繋がるかもしれない。
- ・肉用牛農家にアンケート調査ができれば増頭の見込みや課題が把握できるのではないかと。

②採卵鶏

- ・鶏卵での営農は資金面や労働力の問題が大きく規模拡大が難しい現状にある。また人手不足時の補助人員を探すのは難しい。
- ・県内の鶏卵の受給率は 70%となっており供給不足の状況である。
- ・企業から増羽の要望が挙がっており JA としてバックアップができれば良いと考えている。

③畜産全体

- ・畜産業で就農する場合、営農地の選定が難しい。畜舎立地には地域住民の理解が必要となるため、畜産を推奨する土地(エリア)を確保し、提供できる仕組みがあると良い。現状、畜産営農地の確保が難しい状況である。

- ・名護市は北部堆肥センターがあり循環型農業の体制が他の市町村に比べて進んでいると感じる。
- ・堆肥センター運営における人員や施設許容量の問題から原料の処理や堆肥の販売については課題があり、現状としては原料の受入れが多い状況である。
- ・国は有機肥料を推進しているが化成肥料と比べ不便な面もあり普及が進んでいない。今後は燃料高騰の影響もあり、需要は高まると見込んでいる。
- ・後継者育成に向け、若年層と高年層の意見交換の場を作り組合員の活性化を図っている。
- ・土地確保に関する情報共有、機械の貸出、牧草の栽培・販売などの連携は可能である。

7) 名護市勝山山羊生産組合

- ・組合員の大半が70~80代であり年齢層は高い状況である。
- ・現状収益を出せず専業として成立しないため、後継者の育成には収益向上が必要である。
- ・組合独自で勉強会や視察等を行い、組合員同士の交流や情報共有、情報収集等を行っている。
- ・販路拡大の新たな手法として、ファーマーズマーケットに冷凍自動販売機を設置している。設置台数を増やしたいが、調理に係る人手不足や台風による停電対応などの食材管理の面で課題がある。
- ・新たな市場ニーズとして、ペットとしての商品化や宗教上の食事制約の課題が少ないインバウンドへの対応食材としての活用、aS1 カゼイン量の含有量が少なくアレルギー反応が少ないことに着目した山羊ミルクの活用などがある。
- ・ホテルとの契約や山羊ジュシーなどの新たな調理方法の模索、また現在生産している山羊と品種が違うが山羊チーズや山羊生ハム等の製作にも今後取り組み「勝山ヒージャー」ブランドの浸透を目指したい。
- ・他の市町村の取り組みを把握することが難しいため、行政から他の市町村の取り組み情報を提供して欲しい。
- ・屠畜を行うに当たり、北部は1頭あたり13,000円と値段が高いため、市で屠畜料の補助を行って欲しい。また、屠畜料に加え屠畜に関連する諸経費が掛かりすぎると思う。
- ・昔ながらの伝統的な屠畜方法(藁焼き)認めてもらいたい。
- ・屠畜後冷凍保存により山羊肉がストックできれば時期の需要に応じた販売対応が可能となるため、公的な冷凍施設を整備して欲しい。
- ・ヤギは準家畜扱いで個体に保険が掛けられないため、優良ヤギを導入したいがリスクを考えると中々手を出せない。家畜扱いに出来るよう、沖縄県としてヤギ特区を設けて欲しい。
- ・名護市で優良ヤギの貸付事業を行っているが、条件が厳しく活用できない現状があるため条件の緩和を行って欲しい。

8) 鶏卵生産事業者

- ・商品の賞味期限が短いことや取扱いの規模が大きいため在庫を抱えやすいことが課題である。今後、卵を活用した加工品等の商品開発や製品強化を行っていききたい。
- ・廃鶏については、食鳥処理施設を活用できれば食肉として販売でき収益化できると考える。
- ・鶏糞については、敷地内にストックされている状況であり市内の堆肥処理センターでの受入容量等に課題があると考えている。
- ・今後卵や廃鶏を加工商品化し、ふるさと納税へ出していきたい。
- ・市全体の話として、生産工程で発生し廃棄処理を行っているものについて、二次利用や資源の地域循環等の仕組みづくりを整えていく必要があると考える。

9) ブロイラー生産事業者

- ・県内の生産企業は2社のみとなっているが、ブロイラー生産の環境条件に適しているのが、県内では北部であることから生産地が集中して立地している。
- ・沖縄県のブロイラー自給率は50%程度であるが、今後更に自給率向上を図る必要があると考えている。また肥育施設を増設できれば生産量増加が可能と見込んでいる。
- ・ブロイラー生産は県・市・企業の3者で官民連携ができており、また生産企業2社で規格統一化が図られていることで安定した品質で大量生産が行われている。
- ・今後の県内ブロイラー生産は名護市が中心となるため、推奨作物への位置づけを希望しており拠点産地化できると良い。
- ・県産「まーさん印」により需要は高い状況である。鶏肉は畜産物の中では低価格であり量販店などの需要は大きい。また宗教上の食事制約の課題が少ないためインバウンド需要による消費拡大が見込める。
- ・自社で整備を行った鶏糞処理場がありJAを通して販売しているが、サトウキビの肥培管理時期以外での利用が極めて低い状況にある。
- ・施設の悪臭対策と鶏糞堆肥の活用促進を課題としており、環境問題への対応として堆肥の循環サイクルの構築を自治体を中心となって取り組んでもらいたい。

10) やんばる和牛生産組合名護支部

- ・支部の組合員は33名であるが牛の頭数は少ない状況である。頭数の増加を図っていくことと優良牛の生産という質の向上を図っていくことが組織としての課題である。
- ・新規就農者の育成・確保の課題として、牛舎や機械等の初期投資の負担軽減支援や牛舎の立地場所や牧草生産のための草地の確保といった支援が必要だと考える。
- ・飼育頭数の増加には牧草生産を増やす必要があるが、現状草地の確保が難しい状況である。
- ・補助事業での優良牛の配当は、良い牛をしっかりと扱える者を選別する仕組みが必要ではないか。

- ・牛糞尿の処理についても、市全体的な取り組みとして循環型農業の構築を進めて欲しい。
- ・組合員相互が勉強し合うことができる体制づくりを行っていききたい。
- ・セリ市場での課題を組合で集約してJAと相談できる体制づくりを構築していききたい。

11) 豚肉生産事業者

- ・県内・県外の販路があり、精肉の加工・販売の他、ホテルや飲食店への販売を行っている。2020年1月に県内で豚熱が発生した影響で海外への精肉等の輸出は停止中となっている。
- ・現在、名護市内の屠場で屠畜したものを那覇市の冷凍保管庫で保管して再度名護市に持ってきている状況であるため、非効率である。名護市内に冷凍保管庫の整備を行う事はできないか。
- ・飼料は輸入に頼っていることから、為替の変動や原油高騰、それに伴う輸送コストの増加等の影響を受けている状況である。飼料については国も国産化を進めているが、県内では飼料を栽培する土地も限られているためなかなか進まない。
- ・加工品については、一括表示の義務等がある事もあり販路の出口戦略も難しい。余裕があれば6次産業化も取り組みたいが、現状は今あるものを販売していくことが前提である。
- ・堆肥についてはSDGs的な視点をもって、今あるものを資源に変え未利用資源を活かす循環の仕組みづくり等も計画として進めてもらえればと思う。
- ・恐らく全国的な傾向ではあるが、規模拡大をしたくても悪臭対策等が必要であり、土地の確保ができない状況である。沖縄県中南部では宅地化が進み、畜産ができる場所が無くなっている状況にあり、畜産を取り巻く環境は難しくなっている。
- ・以前は、パイロット団地が多くあったが、複数の企業が入居すると団地内でウィルスや病原菌のキャッチボールをしてしまう欠点があった。そのことから国内の豚肉自給率は低い状況であり、現在の畜産を取り巻く環境が改善されなければ、県内から県産豚が無くなってしまう可能性もある。
- ・今後、名護市でテーマパーク建設の話がでていますが、そこで飲食物については名護産のものを使用してもらい働きかけが必要ではないか。そのためには他市町村のように包括協定など結ぶといった取り組みが必要ではないか。農家で雇用が生まれると、様々な業種が関連し雇用が生まれる。一次産業が無いと、それに付随する産業が振興しないと考える。

(2) 林業

1) 沖縄北部森林組合

- ・森林組合が受託した事業は、現在5つの作業班で対応を行っているが高齢化とともに従事者が減少し、作業班自体も減少している。このため、林業を維持するためには事業量の増加が必要と考える。
- ・山での作業はきつく、また年間を通した事業が無いため就労日数が少なく、日雇い雇用となり、収入も限られている。
- ・現在、造林事業や販売購買事業等を実施しているが、新しく事業展開する人的余裕はない状況である。
- ・名護市所有の森林で『名護市型の持続可能な森林経営モデル構築事業』を展開している。そこでは、新しい木を植付け、切り出した木材の出荷、椎茸栽培用のオガ粉を製造し、収益の向上を目指している。
- ・沖縄県では県産きのこの増産、販路拡大を目指す動きがみられるが、現状では連携した取り組みは行っていない。
- ・過去に森林計画で整備した森林の更新時期が迫っており、更新作業に向けた課題解決のため戦略的に『名護市型の持続可能な森林経営モデル構築事業』に取り組んでいる。
- ・山林の調査については近年GISの活用、沖縄県森林クラウドシステムの取り組みが始まっており、それらの活用についても今後検討したい。
- ・森林関係贈与税を活用した事業を創出し収益化する方法を模索したい。そのために『名護市方の持続可能な森林経営モデル構築事業』の維持を求めたい。
- ・長期の森林整備計画の策定を行い、安定した事業量、林業従事者の確保がでる体制づくりを図りたい。
- ・林業担い手の確保に向け、北部農林高校生のインターンシップ受入れや資格取得を支援する『森林整備担い手対策基金事業』を実施している。
- ・製材目的の山林ではないため県外のような林業を営むのは難しい状況である。

(3) 漁業

1) 名護漁業協同組合

- ・水産資源の減少が大きく影響し、漁獲量が下がっている状況にある。併せて燃料費も高騰している状況にあるため、漁業所得向上のために漁獲高の向上又は付加価値を高め魚価の向上を図っていくことが今後の課題である。
- ・浜の活力プランにおいて、漁業者の所得向上、未利用魚の活用、浮き漁礁の整備による作業時間の軽減と経費削減等を位置づけ、取り組んでいる。
- ・水産資源が減少傾向にあるため、現在ウニの試験養殖の取り組みを行っている。将来的に現在の護岸を300mほど延長してその海域内でウニやシャコガイ等の養殖を行い、観光にも繋げられないかと考えている。今後、自然に近い形での養殖方法の研究について大学院大学へ協力要請できればと考えている。

- ・現在、セリ販売が主となっており加工販売はないがイルカや鮮魚の加工品開発については今後検討が必要かと考える。
- ・漁業の後継者育成については、新規漁業者への新規漁具導入補助や漁業研修を実施している。また県漁連が主体となる求人イベントでの出店を行い、新規就農者の呼び込みを図っている。

2) 羽地漁業協同組合

- ・現在、組合で行っている養殖はアーサとモズクが主体となっている。それ以外の期間は個々で漁業活動を行っており、漁業形態は様々である。小さい漁業を行うのが羽地の漁業形態である。
- ・製氷事業は電気代等の維持管理費が高く赤字運営が続いたことから、2年前から休止している。
- ・現在の販路は県内事業者向けが主となっているが、今後、販売単価が高い県外・国外向けの販路拡大を狙っている。それには物流の課題への対応を考える必要がある。
- ・漁獲量が低く漁業者の所得が低い現状にあることが一番の課題である。観光分野での取り組みや天候に左右されず着実に収入が得られる養殖などにより所得向上を図り、若者から憧れるような稼げる漁業を作り上げていきたい。
- ・今後、羽地ナマコの養殖・商業化やサメの加工・販売、遊覧船の実施など戦略的に取り組んでいきたい。
- ・市職員が組合に出向して、第三者的な立場で運営に入ってもらいたい。
- ・組合員の年齢層は平均50代で、一番若い人は30代前半くらい。後継者の確保を図るため、漁業見習制度を作り積極的に新しい組合員を増やしていきたいと思っている。
- ・羽地漁協には、新規就業者を対象とする支援制度が無いため今後漁業見習い制度を創出し積極的な呼び込みを行っていきたい。後継者確保は旧羽地村地域を対象を絞り、新しい人材の確保に努めたい。

(4) 商工業・観光業

1) 名護商工会

- ・市内農業関連の商品と言えば、勝山シークワサー、あぐ一豚、パイン園が挙げられる。パイン園は、カステラやワイン、化粧品等のアイテム数が豊富である。その他、コーレーグースや唐辛子等のスパイス関連の加工品が多いことも特徴である。
- ・商工会での商品開発に関する支援として、商品化の補助金申請が年に1、2件程度ある。
- ・原材料の供給については課題になっている。農産物は青果で販売しており加工品として使うものが少ないと感じる。
- ・名護市の特産を活用したお土産用箱菓子が少ないことも課題である。

- ・学校と連携した商品開発を行う場合、このような活動に熱心な先生がいないと難しい。キャリア教育の一環で食育などと掛け合わせられたら良いと思うので、学校と商工会をコーディネートする人がいると協力しやすい。
- ・2019 年度に返礼品制度採用を名護市商工会が業務委託受託しており、ふるさと納税ポータルサイトのふるさとチョイス、楽天ふるさと納税、ふるなび等に掲載している。
- ・ふるさと納税の返礼品登録数は 867 件。個人・企業が返礼品の登録をしており、JA も登録に向けて調整している。
- ・返礼品はパイナップルやマンゴーで 8 割を占めている。ふるさと納税は 11 月～12 月（納税ピーク）頃に予約するが、マンゴーやパイナップルの場合は、翌年の夏頃に発送するため注文と発送の時期が半年程期間ずれる。それにより、翌年の収穫見込みが読めないのが課題となっている。
- ・市内飲食店などの名護産農林水産物の活用状況については、把握していない。
- ・市内ホテル等で小規模農家等と取引や規格外商品の取引については、地域の農産物を使用してもらうことが根付いていないので販路開拓に課題がある。
- ・市内ホテル等で名護産農林水産物の活用を進めるためにも、農産物・加工産物を含めたマッチング会や商品 P R 販売する市内ホテルとの商談会も主導していきたい。

2) 名護市観光協会

①地産地消関連

- ・名護市内ホテルと農家との取引状況については把握していない。
- ・一部のホテルでは、宿泊客を名護漁港のセリ市場に案内して魚の説明等を行い、また購入頂いた食材を夕食で提供する取り組みを行っていた。
- ・山田公民館で農家が朝市を開催していて、そこにホテル業者の方も買い付けに来ており、短時間で完売すると聞いている。このような活動をもっと広げてもいいのではないか。
- ・まずは、ホテル組合名護支部（13 施設）との意見交換が必要ではないか。その際には、決済担当者である総支配人の出席が必要である。そうでなければ、物事が進まないと思う。
- ・ピトゥーについては、良い商品は県外へ発送されている。ホテルに卸してほしいという声も聞くが、使いたい側と欲しい側のマッチングが課題となっている。
- ・飲食業どこでも取り扱いしてもらえる名護の食材を使った一押し商品、名護市推奨品といったものがあればいいのではないか。県外の方が地元の方から『お勧めです』と言ったら、それを食べると思う。
- ・名護パイナップルについては、観光と農業の先駆けとしてとても参考になるかと思う。仕入れ先の農家との繋がりをとても大切にしており、どんなに経済状況が悪化しても、通常の価格で仕入れるなどの努力・関係づくりをしている。
- ・北部の土壌はパイナップルに合っており、南部では生産できないためそれを一つのブランドとして考えており、関係者の生活も考えて取り組む必要があるという会長の

想い・考え方がある。仕入れの仕組みは、生産者としても収入の安定につながり、後継者確保にもつなげやすい。

②漁業との連携

- ・漁港を活用したプログラムとしては名護漁港でハーリー体験を行っており、羽地漁協でも希望があれば実施可能である。名護漁港のハーリー体験については、観光協会がエージェントに売り込みを行っている。その他、名護漁協を活用したマリン体験のニーズもある。
- ・羽地漁港については、例えば釣り大会等の開催の可能性もあるのではないかと。羽地内海は古宇利島も近いので何かしらマリンスポーツ体験ができないかと思う。
- ・養殖したウニの収穫体験等は、ニーズはあるかと思う。

③名護漁港と中心市街地の連携

- ・名護市はやんばるの拠点であり、名護漁港が情報発信の拠点として機能することが重要かと思う。名護漁港への二次交通の拠点整備、漁港からのアクセスをどう構築するのが課題になると思う。
- ・名護漁港に就航している高速船は、片道 1,000 円で那覇市まで行けるため高速代やガソリン代などを考慮すると、高速船が各課題解決に重要な鍵になる可能性もある。
- ・北部全域の観光事業者と意見交換をする機会があるが、北部全域がハワイの様に随時バスが循環している仕組みがあってもいいのではないかと話題がでる。
- ・観光の視点で言えば、クルーズ船の受入ができないかと考える。沖合にクルーズ船が停泊している景色が絵になる。浮桟橋さえあれば沖合から小型船で、ピストンで名護に入ることも可能となる。観光事業者としても今後の誘致に期待したい。

3. 名護市農林水産物等の利用に関するアンケート調査結果

「名護市農林水産振興計画」の策定に向け、名護産農林水産物の利用実態について、市内飲食店の皆様の意見を伺うために「名護市農林水産物等の利用に関するアンケート調査」を実施した。

(1) 調査概要

- 1) 調査の実施方法：郵送による配布・郵送または Web による回収
- 2) 調査対象：iタウンページに掲載されている名護市内の飲食店等
調査実施期間：令和4年11月4日～令和4年11月30日まで
配布数： 358 件 有効回答数： 88 件（無効0件）回答率：24.6%

3) アンケートの構成

アンケート項目
問1 客層
問2 顧客1名あたりの単価
問3 食材の主な仕入れ先
問4 仕入れ食材を選択する際の優先事項
問5 名護産農林水産物等の利用に対する関心
問6 名護産農林水産物等の利用状況
問7 名護産農林水産物等を仕入れる際の課題
問8 その他必要と考える取り組みについて（自由記入）

(2) 調査結果 (単純集計)

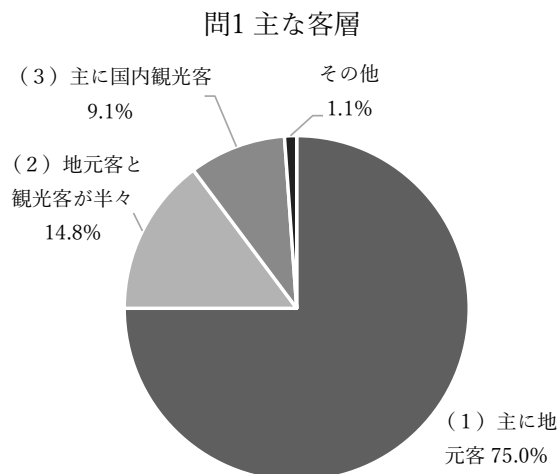
1) 基礎情報

問1 貴店舗 (貴社) の主な客層についてご回答ください。(1つに○)

客層については、75.0%が『(1) 主に地元客』と回答しており最も高く、次いで『(2) 地元客と観光客が半々 (14.8%)』、『(3) 主に国内観光客 (9.1%)』となっている。

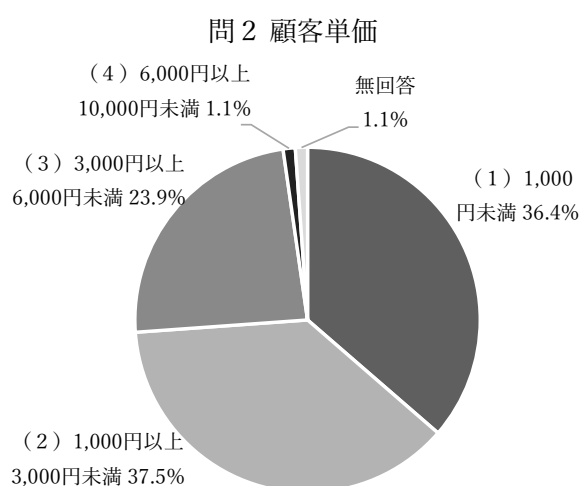
<その他回答>

外国人兵隊



問2 貴店舗 (貴社) の1人当たりのおおよその単価についてご回答ください。(1つに○)

1名当たりの顧客単価は、『(2) 1,000円以上 3,000円未満 (37.5%)』と『(1) 1,000円未満 (36.4%)』が3割強と高く、以下『(3) 3,000円以上 6,000円未満 (23.9%)』、『(4) 6,000円以上 10,000円未満 (1.1%)』となっている。



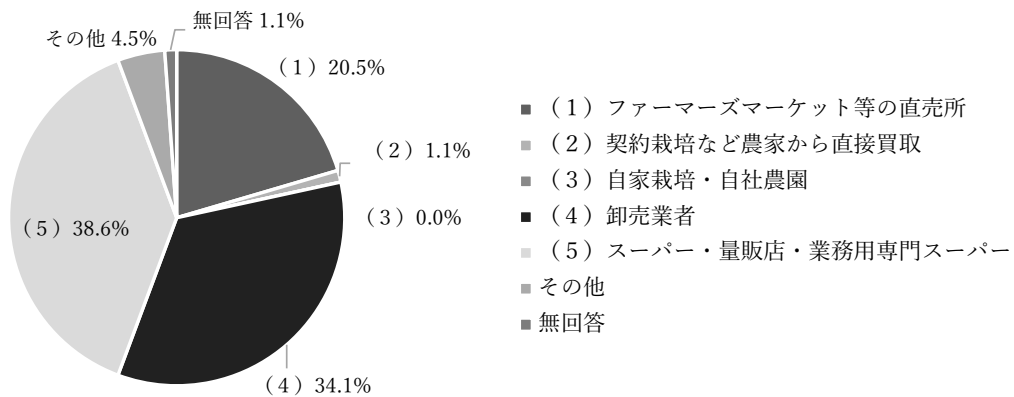
(参考) 一般的に飲食店の原価率 (売上に対する原材料費) は 30%前後と言われている。客単価が『(1) 1,000円未満』では原材料費の目安は 300円未満、『(2) 1,000円以上 3,000円未満』では原材料費の目安は 300円~900円、『(3) 3,000円以上 6,000円未満』では 900円~1,800円となる。

問3 貴社で使用する食材の主な仕入れ先はどちらですか？（最も購入量の多いところをお答えください）（1つに○）

食材の主な仕入れ先は、『(5) スーパー・量販店・業務用専用スーパー』が38.6%と高く、次いで『(4) 卸売業者 (34.1%)』、『(1) ファーマーズマーケット等の直売所 (20.5%)』、『(2) 契約栽培など農家から直接買取 (1.1%)』となっている。

一方、『(3) 自家栽培・自社農園』とする回答はみられなかった。

問3 主な仕入れ先



<その他回答>

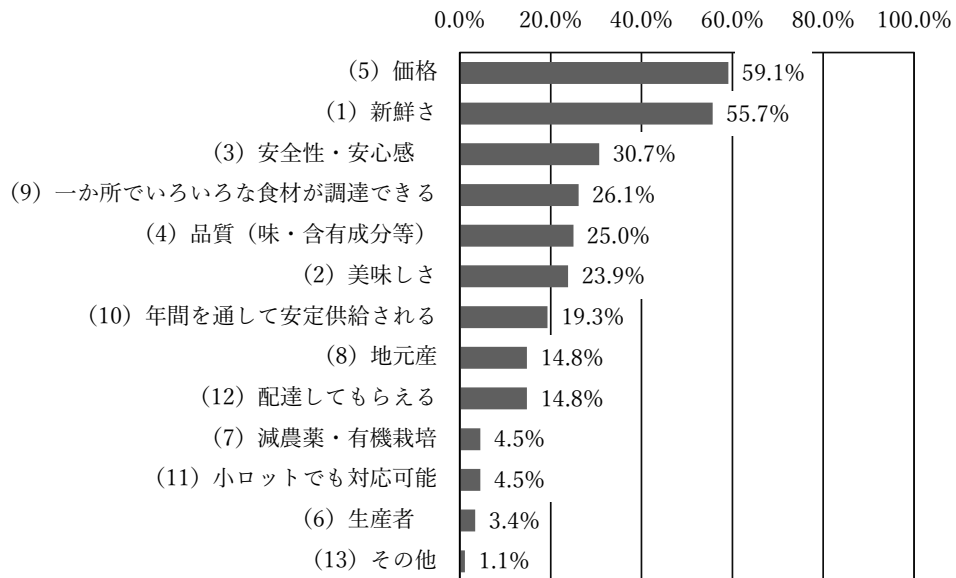
フランチャイズ本部のセントラルキッチン／外国及び国産メーカーから直接仕入れ／コープ／名護市場

問4 仕入れ食材を選択する際の優先事項を選択してください（○は3つまで）

仕入れ食材を選択する際の優先事項は『(5) 価格 (59.1%)』及び『(1) 新鮮さ (55.7%)』がそれぞれ約6割と高く、以下『(3) 安全性・安心感 (30.7%)』、『(9) 一か所でいろいろな食材が調達できる (26.1%)』、『(4) 品質 (味・含有成分等) (25.0%)』、『(2) 美味しさ (23.9%)』と続いている。

仕入れ食材を選択する際には、飲食店の経営を行う上で重要な要素である原価率の抑制のため、価格について重視しながら、素材の良さに配慮している様子がうかがえる。

問4 仕入れ食材を選択する際の優先事項



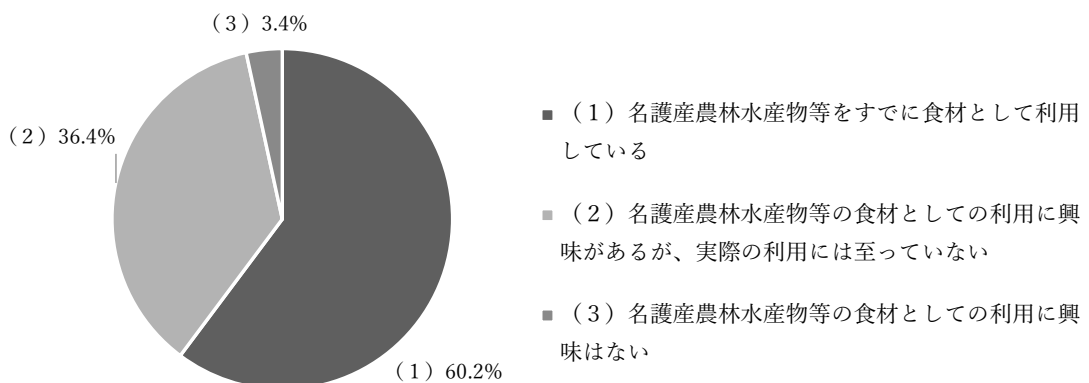
<その他回答>

品数

問5 貴店舗（貴社）におかれまして、食材として名産農林水産物等の利用について興味はありますか。（○は1つ）

名産農林水産物等の利用については、『(1) すでに食材として利用している』が60.2%と最も高く、次いで『(2) 興味があるが、実際の利用には至っていない(36.4%)』となっており、ほとんどがすでに利用している又は興味があると回答している。

問5 名産食材の利用について

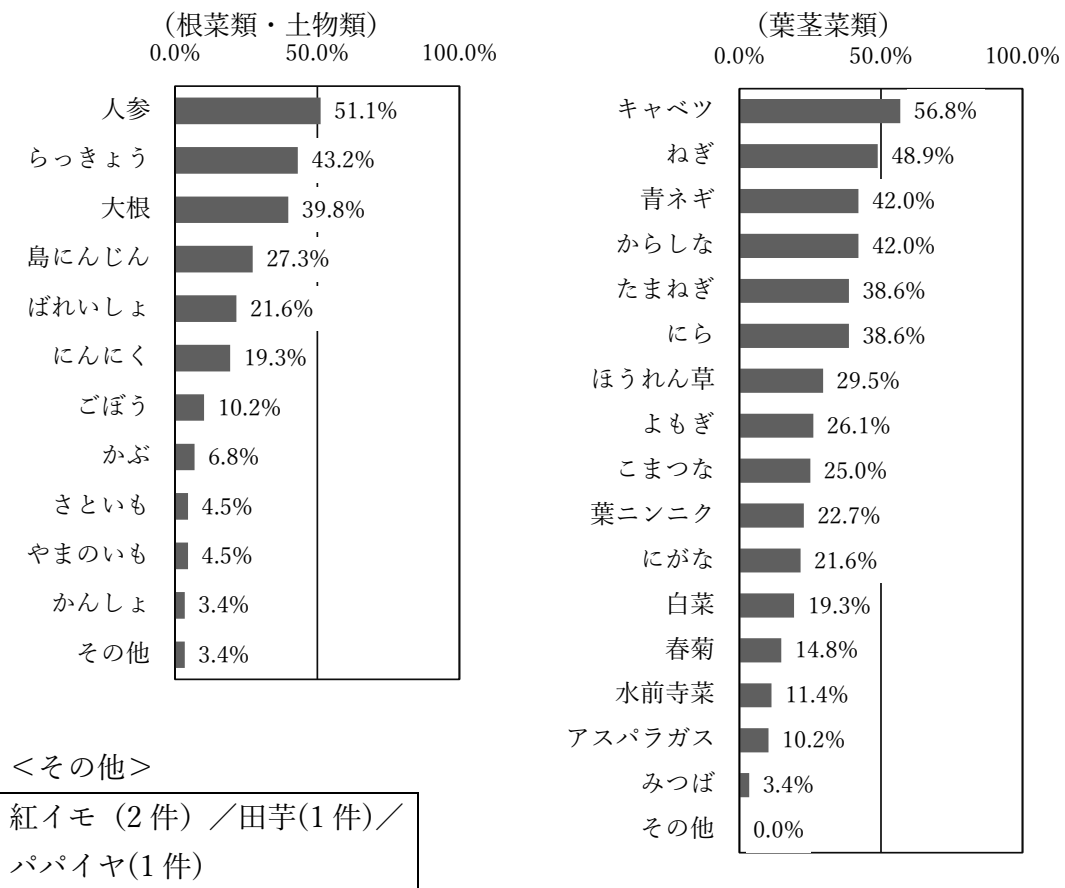


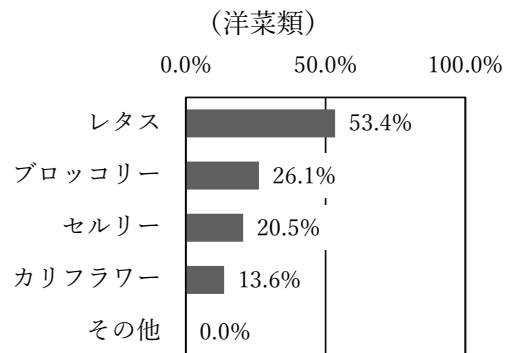
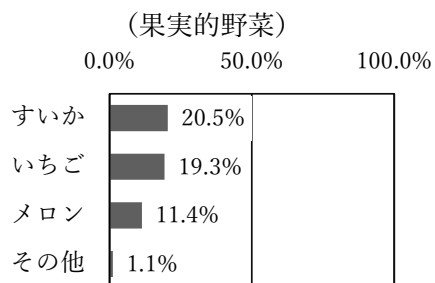
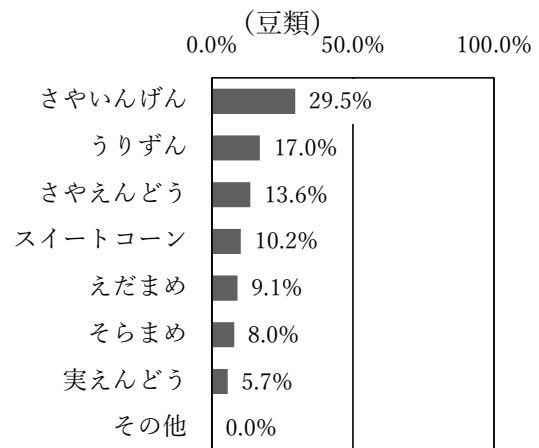
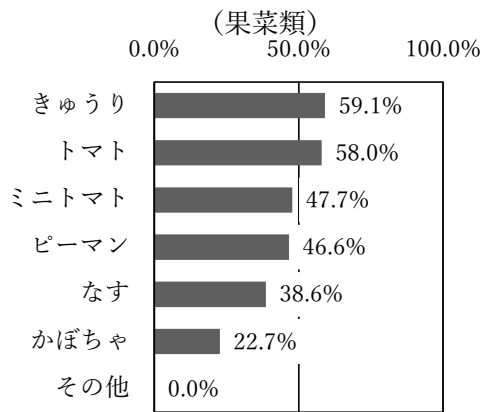
問6 貴店舗（貴社）では、名護産農林水産物等の中で、食材として実際に利用しているもの、又は今後利用してみたいものはありますか？下記の名護市内で生産されている農林水産物のリストの中からあてはまるものすべてに○をしてください

回答者の50%以上が『利用している』または、『今後利用したい』と回答している農林産物は、「ゴーヤー（64.8%）」、「きゅうり（59.1%）」、「トマト（58.0%）」、「キャベツ（56.8%）」、「レタス（53.4%）」、「人参（51.1%）」、「オクラ（50.0%）」、「シークワーサー（50.0%）」となっている。

水産物では全体的に冷凍・切り身と比較すると鮮魚の需要がみられ、中でも「まぐろ類（鮮魚等）」が38.6%と高い。また、海藻類では「モズク」が36.4%と高い。

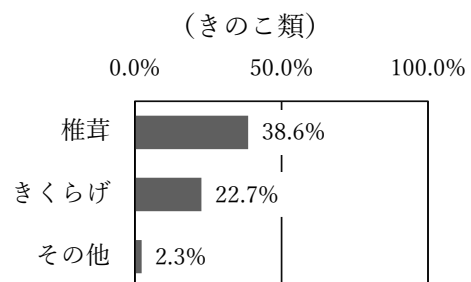
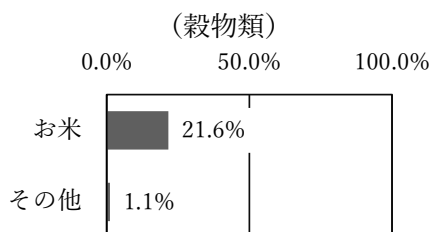
畜産物では「鶏卵（58.0%）」、「豚（アグー）（45.5%）」などが『利用している』または、『今後利用したい』とする回答の割合が高くなっている。





<その他>

オレンジ (1件) / りんご(1件)

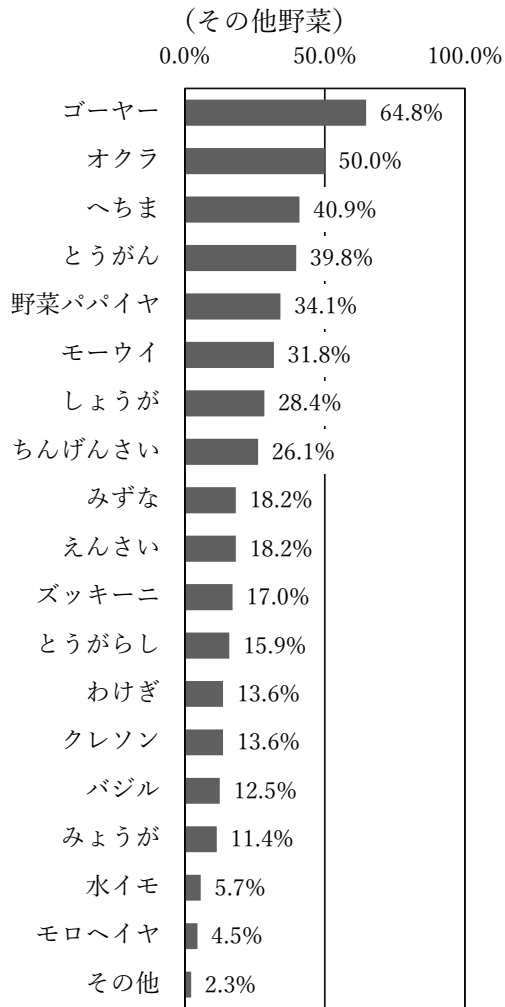


<その他>

黒米 (1件)

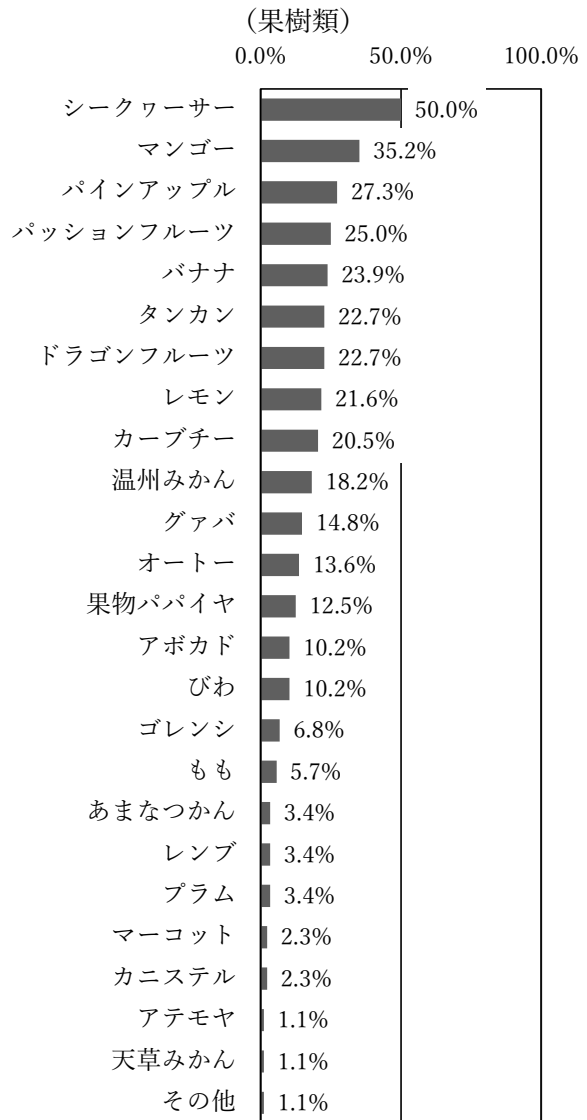
<その他>

しめじ (2件) / エノキ (1件) /
エリンギ (1件)



<その他>

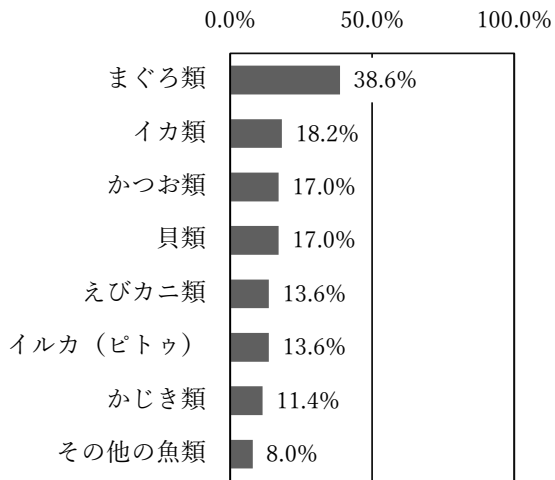
島菜 (1件) / 自家製 (1件)



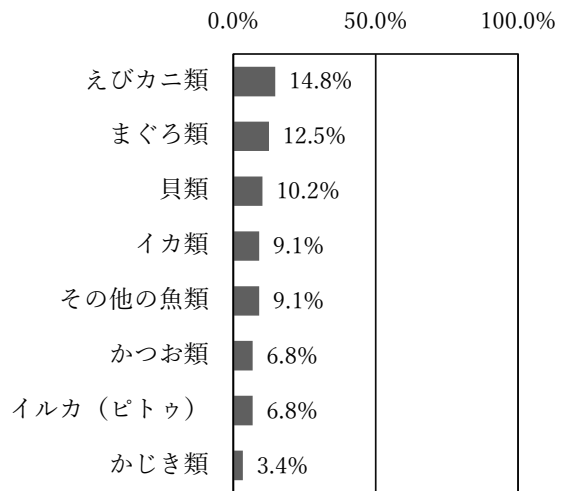
<その他>

グァバ葉っぱ (1件)

(水産物：鮮魚等)



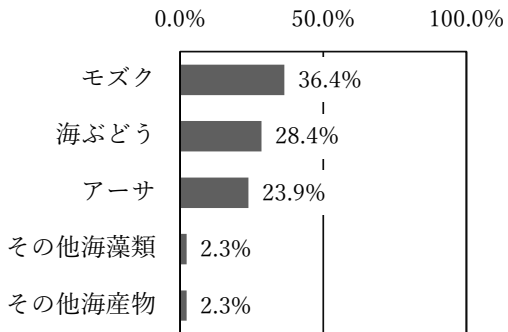
(水産物：冷凍・切り身)



<その他>

貝類 (1件) / その他の魚類 (1件)

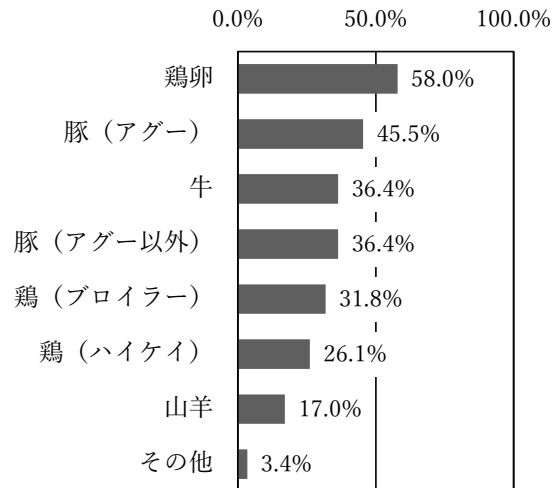
(水産物：海藻類・その他)



<その他>

島タコ (1件) / マチ (1件)

(畜産物)



<その他>

県産和牛・もとぶ牛・山城牛 (1件)
/ 山原島豚 (1件) / 鶏ガラ (1件)
/ 三枚肉 (1件) / なんこつ (1件)
/ もも (1件)

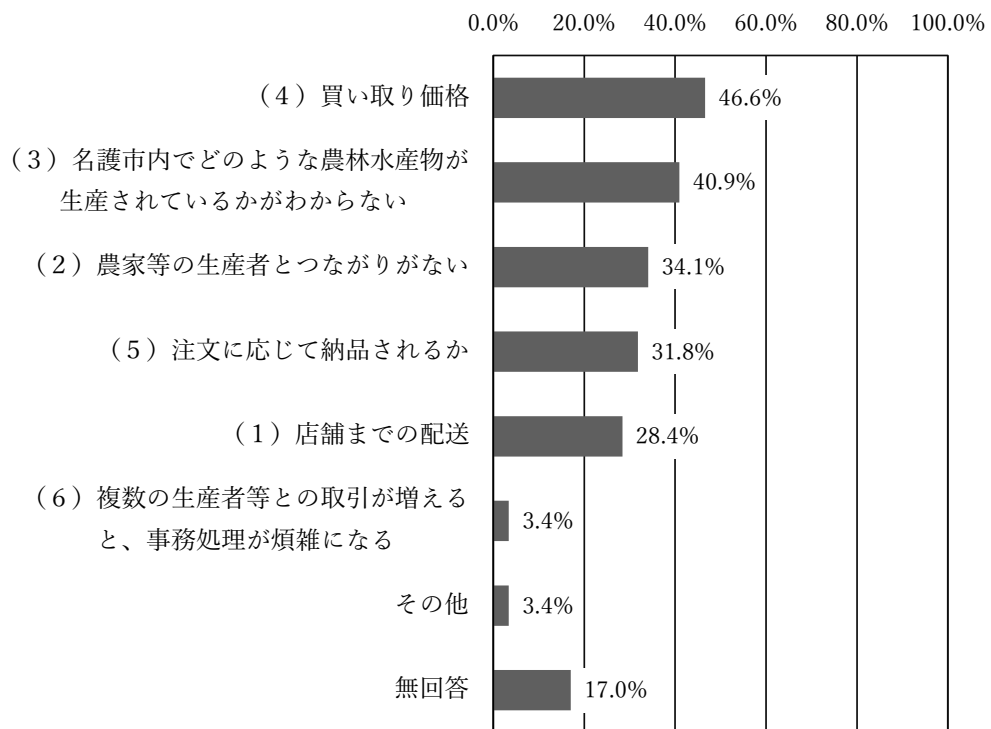
問7 名護産農林水産物等を仕入れる際、課題となることは何ですか。(3つに○)

名護産農林水産物等を仕入れる際の課題としては、『(4) 買い取り価格』が46.6%と高く、次いで『(3) 名護市内でどのような農林水産物が生産されているかがわからない(40.9%)』、『(2) 農家等の生産者となつながりがない(34.1%)』、『(5) 注文に応じて納品されるか(31.8%)』と続いている。

『(3)名護市内でどのような農林水産物が生産されているかがわからない』や『(2) 農家等の生産者となつながりがない』が回答の上位となっていることから、市内で生産されている農林水産物や生産者に関する情報の発信・共有を行うことで、市内の生産物の利用に繋がる可能性がある。

また、問4でもみられたように、飲食店の経営を行う上で原価率の抑制は重要であることにも留意する必要がある。

問7 名護産農林水産物等を仕入れる際の課題



<その他>

安定供給／沖縄で作られる野菜が増えるとなお良い／手間がかかりそう。フットワークの問題等

問8 その他、貴店舗（貴社）において、名産農林水産物等をより利用するために必要と考える取組みについて、自由にご記入ください

農作物の品質・価格について（5件）

特に農産物に関わる農家さんへお願いしたい。野菜をただ作ればいいのではなくて品質のいい野菜を作ってほしい。例えば、ナーベラーやきゅうり、何でも大きくすればいいというものではない。その野菜の一番おいしい大きさと収穫して欲しい。料理人としては困ります。葉野菜でも同じです。JAさんの指導よろしくお願いしたい。

季節ごとに価格の幅が大きい（冬場はたくさんあり、価格も下がるが夏場は種類も少なく、価格も高い）。

物価高の中、仕入れ価格は重要なので、どうしても地産の物にこだわる事が難しい。

安定した価格での取引ができるように考えて欲しい。

欲しい物が安定的に供給されないので、数ヵ所回らないと手に入らない品物がある。大手スーパーと価格が変わらない為、強いて買わない。地元産だけでまかなえれば一番良い。

仕入方法・生産者（物）の周知等について（7件）

地元産がわかりやすいコーナーがあると便利。

農産物がどの地域で生産されているかわかるようなMAPがあれば助かります。

生産者情報のとりまとめ。立地を活かしたブランディング。

水産物の仕入れ場所がわからない。名産農林水産物の仕入れ先があまりない。店舗用の仕入れ価格が一般と同様で仕入れがむつかしい。量に応じての価格が安くないので遠慮する。

見える場所にあれば買って使っていける。地産地消はとても良いことだと思う。国内産の利用をしているが、やんばるにあるものはそれを使うようにしています。

実際に市内の農産物を使用したいがコネクションがなく近隣の友人達に頼っている現状である。加工用なので、形よりも味重視で多めに利用価値が多いと思う。少しいびつでも、小さくても可であるか？取り組みありがとうございます。大いに期待したいと思います。

直売所等が近くにあれば利用すると思う。

その他（14件）

道の駅みたいな場所になったらいいと思います。

個人的な意見としては、地元の商品が何でも良いと思います。

大型店（ホテル等）が直接生産者につながり大量買入されると使用したい食材があっても使えない。JA等で裏でやり取りされると困る。

このアンケートには花卉類がない。加えるべき。
消費者改革
円安による飼料の高騰への対策
無農薬の野菜
当店の食材は少量の為、農家などから直接仕入れるということがないので、今後も店舗に自分で買いに行くということしかできないので、必要な取り組みとしてはあまり考えることはありません。又、仕入れたとしても大量の食材を無駄にしまう可能性があるのでは、仕入れていない。時々、お客さんから自家製の物(シーワーカー、パイン、ニガウリ、ヘチマ、大根、らっきょう、ニラ、その他)などをいただくことが多く、それで結構、今のところ間に合うことが多いので、非常に助かっています(特に今は給付金がないので)。
以前「たんかん」を農家さんから直接仕入れていたことがあった。その時は配達してもらっていたが、「高齢の為配達が難しいので取りに来て」「今年是不作でほとんど収穫できず、納品できない」「採算が合わないのでたんかん畑をやめてシーワーカーに変えた」等々。毎年のように農家さんが変わり、また品質も安定しない。その都度価格交渉や納品日の相談など詳細にせねばならず、結局ファーマーズで自分の目で品物を確認し価格も低い商品を選べるので購入している。また、紅芋や田芋やかぼちゃも地元産を使用したいが、やはり産地として有名な紅芋→読谷、田芋→金武・宜野湾、かぼちゃ→北海道と表記できた方がお客さんは買ってくれるので、名産を優先に使おうという気持ちにはなれない。
以前、県内のテレビ局の特集で、戦時中米軍が核廃棄物(?)か何かのドラム缶を名産の畑に不法投棄したと証言しているのを見た。それ以来、名産の畑で取れた野菜を買うかは抵抗がある。
出入口の混雑の解消。レジ後の買物かごの持ち手ははずす意味は何でしょうか。盗難防止なのか?重い時は親切さを感じない。
島らっきょうは全国で有名になっています。観光客に食べ方を聞かれました。塩づけ方法や天ぷらの方法をボードにしたらどうでしょう。案外、塩づけは時間がかかりますよ。今日は300円以上しましたが、手軽に安価で年間買えたらいいですよ。
お盆、シーミーなど行事の時は花代が高くなる。前もってわかる事なので考えてみて欲しい。大手スーパーより高い時がある。東南植物の近くにあるファーマーズは安いよ。束も多いしキレイ。
場所は名産市親川の地域で親が亡くなって保養地を子供たちが管理お願いされて借りている場所で、この地域は保有地が多く、自分のところから共同農地として動けばみんなやっていきたいと思っています。子供、若者、中年等のいこいの場として共同農場をやって行きたいと思っています。この地は農業用水、自分のたい肥は多くあって、皆が使用できるように準備もしております。別で仕事され

ていても、土、日を使用して農業して、子供や若者、今は奥さん方が多いです。皆が楽しみながら農業も出来る方法でやって行ければ子供たちもわかってくれるんじゃないかなと思います。